

関西医科大学 広報



入学式で式辞を述べる木梨新学長

新・関西医大スタート

Vol.61

CONTENTS

トピックス：新学長就任

P.1

大学：第2回アプリコット賞受賞者決定

P.25

トピックス：入学式

P.7

総合医療センター：卒後臨床研修評価機構
(JCEP) による認定病院

P.28

法人：入職式

P.9

お知らせ：交流センターラウンジオープン

P.30

新学長に木梨達雄教授が就任



友田幸一学長の任期(3期・8年)が令和5年3月末日をもって満了となることに伴い、次期学長を選出する学長選考が行われました。

その結果、次期学長候補として附属生命医学研究所分子遺伝学部門木梨達雄教授が選出され、理事会での承認を経て、4月1日付で学長に就任しました。

※役職は学長選挙当時

■木梨 達雄 新学長 略歴

昭和59年 3月	山口大学医学部卒業
昭和63年 3月	京都大学大学院医学研究科博士課程修了
平成 2年12月	ハーバード大学留学
平成 6年 4月	東京大学医科学研究所免疫学研究部 助手
平成11年10月	京都大学大学院医学研究科 分子免疫学・アレルギー寄附講座教授
平成17年 4月	関西医科大学附属肝臓研究所(現・附属生命医学研究所)教授・所長
平成22年 4月～	関西医科大学評議員
平成30年 4月～	関西医科大学副学長・理事

学長就任のご挨拶

木梨 達雄

友田前学長の退任に伴い、令和5年度から学長に就任することになりました。ご推挙いただいた学長選考委員会、ご承認いただきました法人理事会に感謝申し上げますとともに、教職員の皆様のご支援を賜りながら、歴代の学長、理事長、諸先輩方が築き上げられてきた関西医科大学をさらに発展させるべく全力を尽くす所存です。

振り返って私が入職した平成17年から現在に至る期間は、本学の転換期となる時期と言えましょう。本学法人は経営状態の回復を目指して旗艦となる附属病院、学舎を枚方市に新設する英断を下し、V字回復を成し遂げました。収益の向上は大学の発展へとつながり、平成30年看護学部、令和3年リハビリテーション学部を設置し、3学部2大学院研究科を擁する医療系複合大学になりました。この間、友田前学長、山下理事長の主導により、教育センター設置、カリキュラム改革、分野別認証(医学教育)、機関別認証(大学)に適合した自己点検による質保証の体制づくり、国際化推進センター、光免疫医学研究所設置など、本学の教育・研究の組

織的強化策が次々と実行されました。山下理事長は今後さらに教育・研究に重点を置き、「一流の大学」を目指す方針であることを強調されています。私はこの方針を堅持し、本学の位置づけと目標を明確にして、本学を一流の大学にする具体策を立案し、実行していきたいと思いを。

大学運営の目標と方針

4つの附属病院をもつ医療系複合大学としての本学の第一の役割は、地域の中核として健康・医療・福祉にわたる包括的地域医療および高度先進医療を提供する拠点であることと考えます。その目的を高いレベルで実現するために、「質の高い教育」と「特色のある先端研究」を展開することによって、世界に通じる独創的な強み・特色ある研究大学としてのブランドを確立し、よりよい治療を追求する探求心と患者さんに寄り添う心を持った優れた医療人を育成することを目指します。そのための方針について述べたいと思います。



1 3学部の統括

法人の運営ビジョンに則り、大学運営の方針・目標を実行する学長主導のガバナンスを確立するため、医学部についてはこれまで学長が兼任してきましたが、新たに医学部長を任命し、学部長を配した3学部体制にします。学長は法人と学部長との緊密な連携のもと、教員の教育・研究・業務の活動を把握するとともに、特色ある活動を育成します。3学部を統括して運営するにあたって、内部質保証のシステムで中心的役割をもつ教育研究推進委員会を重視します。この委員会は学長、学部長、各部署の部長、センター長、枚方市代表、学生等から構成されています。学部間の連携・全学的事項にかかわる審議体として強化し、自己点検を通じて指摘された各学部の課題や学部間の連携を大学全体で共有し、PDCAサイクルを着実に実施することが重要です。長い歴史をもつ医学部と、二回生を輩出した看護学部、設置後まもないリハビリテーション学部では、具体的目標や抱える課題が異なるでしょう。各学部長と緊密に連携し、教授会・学部運営および諸課題を共有し、問題解決に取り組みます。

2 教育・研究・医療の推進

医学・医療の領域では確かな知識と技能の習得、より良い治療を目指す研究マインドの育成が重要です。すなわち、よき医人を育成するにはよき研究者も必要です。本学は、すでに世界基準のカリキュラム整備に努め、医学部では研究医養成コース、学生・大学院生の支援強化、研究ブランディング事業・KMUコンソーシアムによる基礎・臨床連携の研究プロジェクト推進や、再生医学・ゲノム医学に関連した講座・部門の新設など、研究力向上に不可欠な人材育成・獲得と研究資金の援助をおこなってきました。その効果として過去5年間で科研費獲得実績は60%増え、質の高い論文によるTHE世界大学ランキングの躍進にも繋がりました。本学は昨年度、光免疫療法の研究拠点となる光免疫医学研究所を設置しましたので、今後の発展に期待します。また、今年度から学費の値下げによる多様な人材を取り入れることを進めて



桜が咲きほころぶ枚方キャンパス

います。さらに中・長期的視野にたつて、教育の質を向上させ、医学・医療の分野で独自性・特色ある研究を推進し、その成果を教育の場に反映させる循環を築きたいと思います。

全国的に起こっていることですが、研究推進で特に懸念されるのは若手研究者の不足です。臨床系教員に対しては、教育・研究時間の確保と支援体制の強化によって本学発の研究をもっと増やす工夫をし、産学官連携のプロジェクトを推進したいと思います。また、ノンメディカルのための医学専攻修士課程、海外の医師のための国際大学院コースの設置、海外大学機関との連携促進、国際公募による外国人研究者の登用、テニユアトラック制度の活用による若手研究者の登用を進め、研究を活性化します。これらの施策を通じて、建学の精神を体現した優れた医療人を育成し、特色ある先端的な研究の推進と臨床の場での実践を通じて社会貢献を行い、日本をリードする、世界に開かれた医療系複合大学を目指します。

3 最後に

学生、教職員の皆様は、夢と希望をもって本学に入学・入職したと思います。本学が、一人ひとりの個性と能力を伸ばし、夢と希望が実現できるような場であること、同時にそれが本学の成長につながるような場であることが大切です。様々な声に耳を傾け、明るく活力にあふれた大学であるように努めます。

学長退任のご挨拶

友田 幸一



私は、平成27年の学長就任以来、8年間に渡り大過なく任期を全うすることができましたのも、ひとえに関西医科大学の法人役員、教職員、学生そして同窓会、関係の皆様一人ひとりのご支援とご協力のお蔭と、あらためて心から感謝申し上げます。その間に看護学部、リハビリテーション学部が新設され、3学部からなる複合大学へと大きく変革しました。前任の山下敏夫学長(現理事長)が築かれた地盤を更に大きく発展させるべく、当初、4つのビジョンを掲げ、それらを基本にさらに新たなミッションを掲げ実行してまいりました。この8年間の中で私が特に力を入れてきた項目についてご報告したいと思います。

その1は、「世界ランキングを目指したグローバル大学の創成」で、平成29年から世界の大学ランキングに入ることを目標に種々の活動をしてまいりました。当初はTHE (Times Higher Education, 英国)日本大学ランキングにおいて初めて141-150位にランクインしました。その後は毎年THE世界大学ランキングにおいて平均で600位前後に位置し、直近の令和5年には、国内の全大学ランクでは11位、私立大学では1位を達成することができました。関西の大学では京大、阪大に次いで第3位になりました。特に教育分野は616位、被引用論文の分野は高く評価され272位に入りました。一方、令和4年4月には関医タワーが完成し、国際交流センターを国際化推進センターと改称し、国際交流の他に、国際研究、国際医療支援、国際広報の4部門から構成され本格的に始動しました。9か国13施設に及ぶ協定校に加え、イタリア、トリノ工科大学との協定など新しい分野にも拡大してきました。学長退任後はこのセンター長として、さらにグローバル意識の高い、世界に開かれた大学を目指してまいります。



国際化推進センターも入る関医タワー

その2は、「教育環境の整備と充実」で、平成26年から導入されたICTを応用した学習システム(KMULAS)

は、全ての学年で重要な学習ツールとなり、いつでも、どこでも自学自習ができるようになりました。平成30年には更にバージョンアップされ、動画配信や双方向の遠隔授業ができるようになり、事前に予習をすることで反転授業やアクティブラーニングが実施されています。さらにTeamsによる通信システムは、コロナ禍でのオンライン授業等で大いに活用されました。一方、教育センター内に設置されたIR (Institutional Research) 部門は、教学データの分析を行い、関連する委員会にフィードバックすることにより、より充実した教育プログラムの作成と運用を行っています。加えてメンター制を導入し、特に成績不振学生の成績や生活管理を行うことで、危機感のある学生に即対応できる体制を取っています。また様々な分析データから国家試験合格予測や入学者選抜の条件設定にも活用されています。近未来的には、AI導入により違った観点からも指導ができる体制を整えて欲しいと思います。

そして特筆すべき事項は、令和3年に日本医学教育評価機構(JACME)による分野別認証を受審し、本学の教育体制・環境の内容が高く評価され、世界水準の認証を受けることができました。

その3は、「研究力のアップ」で、今後の疾患の動向、変化そして次代の医学・医療に目を向けた臨床・基礎研



令和4年国際大学院の入学式

究ビジョンとして、1) 第5のがん治療である光免疫療法など癌を中心とした研究・臨床、2) iPS幹細胞を用いた細胞・臓器再生医療、創薬の研究、3) 免疫・アレルギー分野の研究、4) ゲノム医療・ゲノム医学の研究、5) 中枢・末梢神経系の研究、6) 予防・健康創生医学と介護リハビリなどがかかっています。平成30年には文科省研究ブランディング事業に採択され、難治性免疫・アレルギー疾患克服のための拠点形成を推進。これに付随して患者さんから提供された検体や情報を保管し管理するためのバイオバンクを総合研究施設に設置しました。その他に学長アドホック画像支援モデル開発委員会では、3Dプリンタを設置し臨床・基礎の教員が様々なモデル開発に取り組んでいます。

大学院は、平成28年に改組を行い医科学専攻に一本化し、研究体制を整え、現在博士課程には163名(充足率81.5%)、修士課程には9名の院生が在籍しています。またできるだけ期限内に学位取得ができるよう予備審査制度を導入しました。令和4年秋からは海外の優秀な研究者を受け入れグローバルに活躍できるエリートを育成する「国際大学院」制度が始動し、現在7名の院生が研究に励んでいます。研究は大学のアカデミアの根幹を成すもので更なる発展を期待しています。



令和4年国際大学院の入学式

その4は、「競争的外部資金の獲得強化」で、文科省科研費は年々採択件数ならびに獲得金額を伸ばし、目標の250件弱、4億円を達成しました。またAMED、JSTなど文科省以外の資金も2億円を突破しました。一方、産学知財部門では医療産業、製販企業などとの強いパイプを生かし、教職員から100件に及ぶ医療ニーズ発表会を通して共同開発や特許申請等を進め、これまで6件が社会実装されました。その他には教育研究企画室の協力で、文科省私立大学等改革総合支援事業のタイプ1とタイプ4の採択やクラウドファンディング(外科学講座、小児科学講座、産婦人科学講座)による寄付金獲得など積極的な活動を行ってきました。その他に4つの寄付講座や6つの社会連携講座を開設しました。一方、健康科学教室の木村前教授を中心に、内閣府地方創生事業で、「ITを活用した健康障害活躍のまち及びヘルスケアビジネス創生事業」を枚方市と、またスポーツ庁の「運動・スポーツ習慣化促進事業」で、門真市、門真市医師会と市民の健康づくりの推進に関する協定を締結しました。

その5として、「次代に求められる医療人の育成」について、高度医療人を育成することは大学に与えられた使命で、医学、看護学、リハビリテーション学を通して、豊富な知識と経験を有し、高い専門技術力を持ち、一方、患者さんの気持ちに寄り添えるコミュニケーション能力の高い、ヒューマニズムを持った医療人の育成を行ってきました。

学長任期8年間において、医学部883名、医学研究科187名、看護学部194名、看護学研究科40名が卒業・単位修得しました。またキャリア形成に自主性を持って参加する学生も増えていて、未来を担う科学者を育成する「研究医養成コース」もすでに卒業生17名が巣立ちました。また「医系技官養成コース」を立ち上げ、将来中央



令和元年外科学講座クラウドファンディング記者会見

省庁や保健所等の行政機関や医務官として活躍する人材育成も行っています。

一方、本学は入試改革を毎年実施し、多様性に富んだ優秀な学生に受験のチャンスがあるように本年度から医学部学費670万円、看護学部学費40万円を減額し門戸を拡げてきました。国家試験も、近年医学部は新卒95%前後の合格率を維持し、また看護学部も2期生が卒業し100%に近い合格率を保持しています。彼らの生涯、様々な職場での活躍は、将来関西医大の更なる発展に必ずや貢献してくれるものと信じます。

最後に、長いようで短かった8年間ですが、大学の発展を思い千思万考の日々を過ごしてきました。また多くの皆様から温かいお言葉をかけていただいたこと、一言報恩の思いです。まだまだやり残したことが多々ありますが、新しい木梨達雄学長を中心に教職員の皆様に託したいと思います。関西医科大学の未来永劫を切に願い退任のご挨拶とさせていただきます。8年間本当にありがとうございました。



医学部長・大学院医学研究科長を拝命して



令和5年4月1日付で本学医学部長および大学院医学研究科長を拝命しました。本学が医学部に加えて看護学部とリハビリテーション学部を擁する医療系複合大学となった

ことを機に設置された新しい職位の初代担当者に任命頂いたことを大変光栄に思うとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は平成17年(2005年)に小児科学講座の教授として本学に着任し、以来20年近く、医学生教育、研修医教育、および大学院生教育に携わって参りました。具体的には、国試対策委員長、教務部長、卒後臨床研修センター長や入試・国試担当副学長などを歴任し、卒前卒後教育全般に関わらせて頂きました。

この度拝命した医学部長および研究科長は、医学部と大学院の総括的責任者と認識しています。その職務を一言で言うなら、“人材の育成と確保”であると思います。すなわち優秀な医学生や大学院生を本学に集め、一流の医師、医学博士、研究者、教員に育てることが使命であると認識しています。また本学の研究・教育体制の充実のため、学外の優秀な人材を発掘し、教授を始めとする本学の教職に着任頂くことも私の任務だと思います。

医学部長および大学院医学研究科長就任にあたっての抱負を以下に簡単に述べさせていただきます。まず優秀な人材を医学部に集めたいと思っています。そのためには多

医学部長・大学院医学研究科長 金子 一成

様性を持つ多くの学生に本学を受験してもらう必要があります。令和5年度入試では学費の大幅な値下げによって延べ受験生数が約40%も増加しました(例年約4,000名が今年度は約5,500名)。これに甘んじることなく、より多くの優秀な学生を集めるため、受験生のビッグデータを有する大手予備校と連携して、本学の魅力を全国の優秀な学生に集中的に発信したいと考えています。また大学院の活性化を図りたいと考えています。近年、全国的に大学院への進学率が低下し、わが国の研究力弱体化の一因になっています。本学の大学院医学研究科も定員割れが生じています。そこで大学院医学研究科への進学率を高めるため、学費減免の対象者を広げ、希望者が入学しやすくするとともに、大学院生の所属講座への研究費補助を増額し、教員が安心して研究指導を行える環境を整えたいと考えています。

創立95周年を迎えた本学が100周年に向けて更なる飛躍を遂げるためには、教員や卒業生の皆様の愛校心が必須です。本学の発展のため、ご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和59年 新潟大学医学部卒業、順天堂大学小児科研修医
昭和60年 順天堂大学大学院(博士課程)入学
平成元年 順天堂大学大学院修了(医学博士号取得)
平成2年 (英国)ロンドン大学附属小児病院腎臓科留学
平成9年 順天堂大学小児科助手
平成10年 順天堂大学小児科講師
平成15年 順天堂大学浦安病院小児科助教授
平成17年 関西医科大学医学部小児科専門部教授
平成29年 関西医科大学評議員
令和3年 関西医科大学理事
令和3年 関西医科大学副学長(入試・国試担当)
令和3年 関西医科大学附属病院副病院長
令和5年 関西医科大学医学部長・大学院研究科長

令和5年度関西医科大学入学式



関西医大大ホールに集まった新入生

4月5日(水) 13時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて3学部2研究科合同の「令和5年度関西医科大学入学式」が行われました。385名の新入生(医学部127名、看護学部101名、リハビリテーション学部107名、大学院医学研究科41名、大学院看護学研究科9名)の新入生が医療の道への第一歩を踏み出しました。

入学式学長式辞

学長 木梨 達雄

本日、関西医科大学に入学された新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。

医学部127名、看護学部101名、リハビリテーション学部107名の計335名と大学院医学研究科41名、大学院看護学研究科9名の計50名の新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様は厚く御礼申し上げます。同時に、これまでの皆さんの努力に敬意を表します。皆さんは、厳しい受験を突破して見事に合格されました。その努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様は心からお祝いを申し上げます。これまでコロナ感染のため皆様の参加を自粛していただいておりましたが、今回は制限をせず開催でき、喜びを分かち合える場となったことをうれしく思います。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まる

キャンパスライフに大きな期待を抱いていることでしょう。関西医科大学について紹介します。本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名



木梨学長と新入生代表

し、昭和29年(1954年)に男女共学制の関西医科大学となりました。今年で創立95年を迎え、医学部卒業生総数は8,796名になります。また看護学部は、昭和7年の附属看護婦養成所を前身とする看護専門学校が89年にわたる長い歴史において5,622名の卒業生を送り出し、その後看護学部を引き継がれ今年2期生98名が卒業しました。この



ように輝かしい歴史と伝統のある大学です。令和3年度リハビリテーション学部が開設され看護学部を含む医療系複合大学となりました。新入生の皆さんを加え3学部の学生総数は1,462名となり、医学部・看護学部は枚方キャンパスで、リハビリテーション学部は牧野キャンパスで勉学に励むこととなります。

4つの附属病院をもつ医療系複合大学としての本学は、地域の中核として健康・医療・福祉にわたる包括的地域医療および高度先進医療を提供する拠点です。このミッションを高いレベルで推進するために、「質の高い教育」と「特色のある先端研究」を展開することに力をいれています。すなわち、世界に通じる独創的な強み・特色ある研究の推進、及びよりよい治療を追求する探求心と患者さんに寄り添う心を持った優れた医療人を育成することです。本学は、THE世界大学ランキングに5年連続でランクインし、今年の世界で601~800位(「国内の大学で第11位タイ」)、国内の私立大学で第1位タイ、関西圏で京都大学、大阪大学に次いで第3位となりました。2つの大学院は修士・博士課程があり、昨年からは医学研究科に国際大学院が開設、新たな研究所として光免疫医学研究所を設けて、世界に開かれた大学、オンリーワンの特色ある研究大学を目指しています。大学院に入学された皆さんは、研究者をめざしてこれから研究活動が始まります。研究を通して高度な知識や技術、問題解決能力、開発能力を養い、常に探求心を持った医療人をめざしてください。

さて、本学の建学の精神は、「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することで、学歌「のぞみ」に由来しています。この建学の精神は「奉仕の精神」をうたっており、医学・看護・リハビリテーション、それぞれの分野に共通して身につけるべき、医療人としての基本的人間性を強調しています。本学に入学した皆さんは、命に向き合う職業を選んだことの重みを認識し、日々勉学に励み、深く、幅広い知識と正確な技能を身につけ、慈仁心鏡の精神を体現する医療人を目指してください。

これから大学という学びの場で、皆さん一人一人の個

性や特性が芽をだし、大きく成長し、将来の目標や夢が明確になっていきます。いのちに向き合う職業に学びの終わりはありません。社会の荒波に耐えながら成長する力もつける必要があります。そのためには華やかな外観にとらわれず、まず殻を破り、大地にたく、深い根を張ることが重要です。まず、皆さんのうちから湧き出る若い力で殻を破ってください。我々は、本学に降り立った種子が、少々の風雪ではへこたれない太い根、関西医大魂をもって成長するよう、畑を耕し、全力で応援します。

最後に皆さんが今後、成長するための秘訣を3つ挙げたいと思います。医学医療にかかわらず、どんな分野でも優れて成長する人に共通すると私が実感することです。

1つは、「謙虚であれ」ということです。失敗を冷静に受け止め、自分を修正するには謙虚さが大事です。また、自分とは異なる考えを吸収できる謙虚な人こそ、視野を広げ、成長することができます。これから学ぶ科目に無駄なものはありません。素直な気持ちで学び、自分に足りないものを気づかせてくれた人に上下の区別なく感謝し、敬意をはらって貪欲に吸収してください。

2つ目は「自らの問いをもて」です。多くの学びや経験を通じて、様々な疑問や問題が見えてきます。それらすべて重要ですが、みなさんの若い感性で大事と思う問題にこだわり、「なぜ」を掘り下げ、本質的な問いとして育ててください。あなた自身の問いは、自ら成長を促す大きな糧となり、目標になるでしょう。

3つ目は「良い人間関係を築け」です。人とのかかわりは、あなたの成長を促し、大きな喜びとなります。しかし、同時に多くの悩みの原因でもあります。学生生活で様々な人間関係に悩むこともあるでしょう。謙虚なところで学び、自らの問いをもって成長するには、「和して同ぜず」の強い気持ちで人間関係を築いてください。お互いの違いを認め、励まし合い、切磋琢磨する関係こそ、人間を成長へと導きます。

以上、私の式辞とします。本日はご入学誠にありがとうございます。

令和5年度入職式

4月3日(月) 10時から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて「令和5年度入職式」が挙行され、新入職者384名が出席しました。この日は山下敏夫理事長、木梨達雄学長を始め、澤田敏副理事長、神崎秀陽常務理事、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長らが臨席。

理事長訓辞に立った山下理事長は、創立95年を迎える関西医科大学の歴史を紐解きながら本学の現状やこれからのについて解説。大学がTHE世界大学ランキング

2023で日本の私立大学で1位にランクインしたことや、北河内地区の医療と健康を支える本学附属医療機関の取り組み、未来について期待を込めて語りました。結びとして常に本学が進化し続けるために「オール関西医大」の一員として一人ひとりが大きな夢を持ち、周囲に語り、努力し、夢をかなえていただきたいと述べました。

続いて新入職員を代表して登壇した心臓血管外科学講座小山忠明教授に、山下理事長から辞令が手渡されました。その後、小山教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。



関西医大大ホールでの入職式



本学の現状について語る山下理事長

心臓血管外科学講座 主任教授に就任して

心臓血管外科学講座主任教授 小山 忠明



令和5年4月1日付で関西医科大学医学部心臓血管外科学講座の主任教授を拝命いたしました。私はこれまでに3,000例以上の心臓手術を執刀し、前任地の神戸市立医療センター中央市民病院では心臓手術の低侵襲化に積極的に取り組んできました。中でも、弁膜症手術ではすべての手技を胸腔へ挿入したカメラの映像で行う完全鏡視下での手術を第一選択としています。この方法では通常心臓手術で切開する胸部正中にある胸骨を温存し、右側胸部に5cm以下の切開を加えるだけで行うことが可能で、術後の回復が早く、退院後の運動制限もなくなり早期の社会復帰が可能になります。狭心症に対する冠動脈バイパス術では、人工心肺装置を使用しない心臓拍動下手術を第一選択として、高齢者や、ハイリスク患者でも良好な成績を得ることができています。関西医科大学赴任後はこの低侵襲心臓手術をさらに発展させて、センター化させたいと考えています。また学生教育、大学院での研究にも注力し、本学の医学生が心臓血管外科

を志したいと思える環境を整えていきます。そして地域の先生方との連携を強固なものとして、心臓血管外科領域での最後の砦として全力を尽くしていきますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成 3年 3月	愛媛大学医学部医学科卒業
平成 3年 6月	京都大学附属病院 心臓血管外科
平成 5年 2月	あかね会土谷総合病院 心臓血管外科
平成11年 4月	京都大学医学部大学院
平成15年 3月	京都大学医学部大学院修了 博士号取得
平成15年 4月	京都大学 心臓血管外科 助手
平成16年 7月	トロントサニーブルック病院 research fellow
平成17年 7月	新葛飾病院 心臓血管外科 副部長
平成21年 3月	イムス葛飾ハートセンター 心臓血管外科 部長
平成23年 4月	神戸市立医療センター中央市民病院 心臓血管外科 医長
平成25年 4月	神戸市立医療センター中央市民病院 心臓血管外科 部長
令和 5年 4月	関西医科大学心臓血管外科学講座 主任教授

附属病院健康科学センター 理事長特命教授に就任して

附属病院健康科学センター理事長特命教授 木村 穰



令和5年4月1日付けで関西医科大学理事長特命教授を拝命しました。

昭和56年本学を卒業し、第2内科、同大学院を卒業し、その後米国コネチカット大学、カナダトロント大学留学、平成9年関西医科大学第2内科に戻りました。その後附属病院に健康科学センターを設立、平成18年枚方病院開院時に現在の健康科学センターを開設、平成21年に教養部健康科学教室教授として教育、研究、臨床に携わってきました。

研究ではスポーツ医学、心疾患患者の運動療法に加え、骨格筋マイオカイン、遺伝子エピジェネティクス、心理学、行動医学を応用した生活習慣病での行動変容、脳機能としての認知機能と運動なども研究しています。特に運動療法では、重症心不全やサルコペニア、さらに肝臓がん手術後、高度肥満に対する胃切除肥満外科手術、腎臓移植運動療法など外科領域でも新しい運動療法を開発しています。

さらに今後くずは駅中健康・健診センターでは、腫瘍運動療法、

腫瘍循環器学としてがんサバイバーの予防、QOL向上のための運動療法を実践していく予定です。同時に社会実装として医学以外のICTや他の職域との連携、チーム医療として実践させていきたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

略 歴

昭和56年	関西医科大学卒業、第2内科入局
昭和63年	関西医科大学博士課程医学博士取得
昭和63年	米国コネチカット州立大学留学
平成 1年	カナダトロント大学留学
平成 3年	大阪簡易保険総合健診センター内科医長
平成 9年	関西医科大学第2内科講師
平成14年	関西医科大学第2内科心臓血管病センター助教授
平成18年	関西医科大学枚方病院健康科学センター長
平成21年	関西医科大学健康科学教室教授
令和 5年	関西医科大学附属病院健康科学センター理事長特命教授

関西医科大学附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門学長特命教授に就任して

光免疫医学研究所腫瘍病理学部門学長特命教授 近藤 英作



本年4月1日付で本学光免疫医学研究所腫瘍病理学部門特命教授を拝命いたしました近藤と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。本学では同研究所の遂行する光免疫療法を中心とする新しいがん治療の研究開発と展開を、私が専門分野とする病理学の側面から支援させていただこうと考えております。

私はこれまで医学部卒業以来約30年ほどの間、病理専門医として患者病理診断に携わる傍ら、大学人としてヒト悪性腫瘍の病理学的解析を自らの使命に据えて研究を継続して参りました。岡山大学医学部時代は悪性リンパ腫を、その後愛知県がんセンター研究所(名古屋大学医学部連携大学院)時代から前任の新潟大学医学部では難治癌としての膵がん、胃がん、肺癌、頭頸部癌など固形癌を中心にがん細胞の増殖・浸潤転移の分子機構の解析と腫瘍組織の病理解析を総合して「がんの弱点を洗い出す」ことを目的に研究を継続して参りました。また、これら基礎研究の成果を患者様の医療に直接つなぐ

研究にも興味を持ち、からだにやさしい利点を活かした「がん標的ペプチド」を開発・応用した新しい医療技術の創生を目指しており、現在はこの両者を両輪として進めています。ただひとえに難治癌を患う患者様たちに貢献を成すことが自分の目標であり、このために精一杯努力して参りたいと存じます。皆様にはどうか宜しくご指導・ご鞭撻を賜ることができればまことに幸いに存じます。

略 歴

昭和63年	岡山大学医学部医学科卒業
平成 4年	岡山大学大学院医学研究科病理系専攻博士課程修了(医学博士)
平成 4年	岡山大学医学部病理学第二講座 助手
平成 5年	Harvard大学Dana-Farber Cancer Institute 博士研究員
平成 8年	Harvard Medical School, Department of Cell Biology, 客員研究員
平成 9年	岡山大学医学部附属病院病理部医員
平成18年	岡山大学医学部病理病態学(腫瘍病理学)講座 准教授
平成21年	愛知県がんセンター(研究所腫瘍病理学) 部長
平成26年	新潟大学医学部分子病理学講座 主任教授
令和 5年	関西医科大学附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門学長特命教授

内科学第三講座消化器肝臓内科(附属病院) 担当診療教授に就任して

内科学第三講座消化器肝臓内科(附属病院) 担当診療教授 下田 慎治



令和5年4月1日付けで関西医科大学内科学第三講座消化器肝臓内科(附属病院)担当診療教授を拝命しました。関係各位の先生方には心より感謝いたします。

私は平成1年に九州大学を卒業後、旧第一内科に入局し肝臓学の研修を開始しました。特に難病とされる臓器特異的自己免疫疾患の研究を行い、平成7年に原発性胆汁性胆管炎の研究の中心であったカリフォルニア大学ガーシュイン教授の元で研鑽を積みました。帰国後は大講座制の名残ある入局先で肝臓領域について一人診療科として18年間にわたり他科からの援助も頂きながら診療を継続して参りました。また平成28年から令和3年までは初期研修医教育・研修指導医養成・内科専攻医プログラム作成なども担当しました。令和3年からはCOVID-19パンデミックでの地域医療を支えるべく佐賀県唐津市の中核病院である唐津赤十字病院で1,000名以上の入院患者さんの主治医を勤めて参りました。さて、肝臓領域ではHCV肝炎は治療可能となりましたがHBV肝炎は病勢コントロールのみで

治療できる段階には至らず、代謝性疾患ともいえる脂肪肝・肝炎や肝硬変・悪性疾患に対しても根治療法は乏しく問題は山積されています。今後はこのような様々なレベルで未だ満たされていない医療ニーズに応えるべく、与えられた職責を十分に果たせるよう精進する所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成 1年 3月	九州大学医学部卒業
平成 1年 6月	九州大学医学部附属病院 第一内科研修医
平成 3年 4月	九州大学医学部 医員
平成 7年11月	カリフォルニア大学デービス校 客員研究員
平成13年 4月	国家公務員等共済組合連合会千早病院 内科医師
平成15年 4月	九州大学医学部 第一内科助教
平成24年10月	九州大学病院 免疫膠原病・感染症内科講師
平成28年10月	九州大学病院臨床教育研修センター 准教授
令和 3年 4月	唐津赤十字病院 感染症内科部長
令和 5年 4月	関西医科大学 内科学第三講座消化器肝臓内科(附属病院)担当診療教授

放射線科学講座(放射線治療科担当) 診療教授に就任して

放射線科学講座放射線治療科(附属病院) 担当診療教授 中村 聡明



令和5年3月1日付で関西医科大学放射線科学講座(放射線治療科担当)診療教授を拝命いたしました。

私は平成8年に神戸大学卒業後、大阪大学に入局しました。放射線腫瘍医としての本格的な診療は、大阪大学大学院およびシカゴ大学博士研究員を経た、平成17年から始まり、中咽頭癌JCOG1208試験や膀胱癌PREP03試験などの全国多施設臨床試験の企画立案・実施を通じて、放射線治療の高精度化に力を注いできました。

関西医科大学に着任してからの8年間では教育面にも力を入れ、新たに放射線治療専門医が3人誕生し、その後には若手医師も増えてまいりました。

放射線治療は、専用CT撮影から始まり照射終了まで、フルデジタルで治療が完結する特性上、今後AIを活用した更なる治療の高精度化・個別化が見込まれています。附属病院でも放射線治療機器の更新が計

画され、いち早く最先端の放射線治療をがん患者さんに提供すべく準備を進めております。附属病院がんセンター副センター長も兼任させていただいており、関連各科の先生方と強力なタッグを組むことで、北河内地区におけるがん診療の発展に尽力する所存であります。今後ともみなさまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成 8年	大阪大学医学部附属病院 研修医
平成 9年	公立学校共済組合近畿中央病院 医員
平成10年	大阪大学大学院医学系研究科入学
平成14年	大阪大学大学院医学系研究科修了 医学博士
平成14年	シカゴ大学 博士研究員
平成17年	大阪大学大学院医学系研究科 助手
平成19年	大阪府立成人病センター 診療主任
平成24年	京都府立医科大学大学院 特任講師
平成27年	関西医科大学 講師
平成28年	関西医科大学 准教授
令和 5年	関西医科大学 診療教授

救急医学講座・診療教授に就任して

救急医学講座総合集中治療部(総合医療センター) 担当診療教授 吉矢 和久



令和5年3月1日付で関西医科大学救急医学講座総合集中治療部(総合医療センター)担当診療教授を拝命致しました。

私は平成9年に大阪大学を卒業後、同特殊救急部(現高度救命救急センター)に入局。以後、主に救急医療に携わりながら、外科研修、脳神経外科研修を経て、主に頭部外傷、神経集中治療、重症感染症診療、集中治療管理の診療・研究に力を入れてきました。大学院では頭部外傷における中枢神経再生に関する研究により医学博士を取得、平成22年4月には米国留学を経験し組織侵襲・腸管免疫についての研究にも携わりました。

令和元年8月関西医科大学救急医学講座に赴任。総合集中治療部部長としてGICUでの診療を担当しています。総合集中治療部は平成16年5月総合医療センター本館が竣工した際にGICU5床/CCU4床の計9床で運用を開始しました。年間約1000件の入室があり、術後重症患者、院内重症患者だけでなく、救命救急センターからの重症救急患者も受け入れています。令和4年春には院内重症部門を拡充しGICU9床、HCU8床の計17床の管理を担うようになり、入室患者数が大きく増

加しています。また、Rapid response systemの整備も担当し、ますます院内のセーフティネットとしての役割が大きくなっています。

引き続き、救急医学科の一員として北河内・北大阪の救急医療に貢献しつつ、救急・院内重症患者の予後改善を目指して尽力していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

平成 9年 3月	大阪大学医学部卒業
平成 9年 6月	大阪大学医学部附属病院特殊救急部研修医
平成10年 6月	国立東静岡病院外科レジデント
平成12年 6月	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター医員
平成16年 3月	大阪大学大学院医学系研究科救急医学講座博士課程修了
平成18年 6月	阪和記念病院脳神経外科医員・医長
平成19年12月	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター医員
平成20年 8月	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター助教
平成22年 4月	米国ハーバード大学Beth Israel Deaconess Medical Center研究員
平成23年 8月	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター助教
令和元年 8月	関西医科大学救急医学講座准教授/総合医療センター病院教授
令和元年 9月	関西医科大学総合医療センター総合集中治療部部長
令和 5年 3月	関西医科大学救急医学講座総合集中治療部(総合医療センター)担当診療教授

神経難病医学講座教授に就任して

神経難病医学講座寄附講座教授 高橋 牧郎



このたび令和5年4月1日より新設されました寄附講座、神経難病医学講座の教授を拝命いたしました。本講座は脳神経内科 葉師寺 祐介主任教授の御尽力のもと幅広い脳神経内科疾患の臨床教育、研究に対応するため創設されました。現在臨床は脳神経内科とともにさせていただいております。私は平成5年京都大学医学部を卒業し、京大病院、天理よろづ相談所病院、住友病院で研修、専門医取得後平成11年に京都大学大学院に帰学しました。

大学院在学中に神経病理を学ぶため米国NY州アルバート・アインシュタイン医科大学に留学、帰国後は東京大学薬学系大学院でパーキンソン病、アルツハイマー病のショウジョウバエモデルを作成、病理生化学的解析を行いました。平成16年より米国マウントサイナイ医科大学で進行性核上性麻痺の脳病理、生化学的解析、その後フロリダのメイヨークリニックで培養細胞を用いたパーキンソン病の原因蛋白 α -シヌクレインの研究を行いました。平成18年に帰国後は北野病院で臨床に戻り、平成21年には京都大学助教として大学院生の指導を行い、その後済生会中津病院、大阪赤十字病院、北野病院

の3つの病院の主任部長を経て関西医大に参りました。まだ右も左もわからない状況ですが、皆様のお役にたてますよう神経難病の臨床、教育、研究に邁進していく所存です。どうぞよろしくお願ひします。

略歴

平成 5年	京都大学医学部医学科卒業、京都大学病院神経内科研修医
平成 6年	天理よろづ相談所病院神経内科医員
平成 8年	住友病院神経内科医員
平成11年	京都大学大学院医学研究科 臨床脳生理学講座 入学 米国NY州Albert Einstein医科大学神経病理部門 visiting research fellow
平成13年	東京大学大学院薬学研究科 臨床薬学教室 委託研究員生
平成15年	京都大学大学院臨床脳生理学講座修了医学博士、神経内科医員
平成16年	米国NY州Mount Sinai医科大学 research fellow
平成17年	米国FL州Mayo Clinic 医科大学 senior research fellow
平成19年	医学研究所北野病院 神経内科副部長
平成20年	京都大学大学院医学研究科 神経内科学講座助教
平成21年	大阪府済生会中津病院神経内科部長、京都大学医学部臨床准教授
平成23年	日本赤十字社 大阪赤十字病院 神経内科部長
平成26年	京都大学医学部臨床教授、関西医科大学臨床教授
平成29年	日本赤十字社 大阪赤十字病院 脳神経内科主任部長
令和 3年	医学研究所北野病院 神経センター脳神経内科主任部長
令和 5年	関西医科大学神経難病医学講座 教授

看護学部看護学教育領域・教授に就任して

看護学教育領域教授 吉田 和美



令和5年4月1日付で看護学部基盤看護分野看護学教育領域の教授を拝命いたしました。私は看護師として10年の臨床経験を経た後、広島で看護教育に携わって参りました。看護基礎教育で地域創成に根ざした独創性の高いカリキュラムを有することで名高い関西医科大学で看護教育に携わる機会を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

広島では、地域の医療施設に勤務する看護師を対象に新人研修やリーダーシップ研修、実習指導者の研修に関わって参りました。地域での活動としては、看護管理者の方々と研究会を発足し、看護師長の役割について文献抄読や全国調査を実施し、共同研究を行ってきました。活動を通して、組織に属する一人ひとりが大切にしている理想や価値観を活かしながら、日々の仕事ぶりに反映させることを支援し、本来の組織理念の具現化を目指す過程が重要であることを実感しております。研究活動としては、フォローアップやリーダーシップをテーマとして取り扱い、組織目標の達成に期待される行動や能力育成について探究しています。看護することを通して豊かな人間性を育み、関わり

合う人々とともに自律的に相互成長できる人材を育成することを目標としています。

関西医科大学の発展と地域の皆様の健康と安心につながる生活に貢献できるよう微力ながら尽力したいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成 4年	広島赤十字看護専門学校卒業
平成 4年	広島赤十字・原爆病院 看護師
平成 7年	東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護師
平成13年	益田赤十字病院 看護師
平成17年	日本赤十字広島看護大学 看護学部看護学科編入卒業
平成19年	日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程修了
平成19年	日本赤十字広島看護大学 看護学部 助手
平成21年	日本赤十字広島看護大学 看護学部 助教
平成25年	日本赤十字広島看護大学 看護学部 講師
平成28年	日本赤十字広島看護大学 看護学部 准教授
平成29年	県立広島大学 保健福祉学部看護学科 准教授
令和 5年	順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程修了
令和 5年	関西医科大学看護学部基盤看護分野看護学教育領域 教授

看護学部地域看護学領域教授に就任して

地域看護学領域教授 大川 聡子



令和5年4月1日付けで看護学部地域看護学領域の教授を拝命いたしました。大阪府内で唯一、全ての学生に保健師・看護師統合カリキュラム教育を行う本学において、保健師の育成と合わせて、対象者のくらす地域や生活への視点を持った看護職の育成に携わることができると重責と大きなやりがいを感じ、身の引き締まる思いです。

私は、平成8年に看護学科を卒業しました。その後、市役所において6年間保健師としての経験を積み、その時に出会った10代で出産した母親への支援から、通常の母子保健サービスでは対応できないニーズがあることに気づき、母子への支援を包括的に学びたいと考え、大学院に進学しました。現在も10代で出産した母親の生い立ち(特に逆境的小児期体験)が、子育てに及ぼす影響について研究を続けています。

社会貢献としては、大阪府内の政令市・中核市保健師の現任教員(新人研修・中堅期研修)に携わっております。今後も自治体や地域の保健機関と連携を深め、保健師としての実践力を身につける教育

を行っていきたく考えています。

大学では音楽部に所属し、入学式・卒業式では毎年演奏をしておりました。式典への参加を通して、大学は多くの関係者の皆様に支えていただいていることを痛感しています。今後も地域に根差し、地域の方々と一緒に親しみを持っていただける看護職の育成に努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成 8年 3月	東京慈恵会医科大学医学部看護学科 卒業
平成 8年 4月	足利市役所 保健師
平成14年8~9月	JICAベトナム国リブドラクティブヘルスプロジェクト インターン
平成14年11月	大阪府立看護大学 助手
平成16年 4月	立命館大学大学院応用人間科学研究科 応用人間科学専攻 修士課程 修了
平成20年 4月	大阪府立大学看護学部 助教
平成21年 4月	大阪府立大学看護学部 講師
平成24年 3月	立命館大学大学院社会学研究科 応用社会学専攻 博士後期課程 修了
平成26年 4月	大阪府立大学看護学部 准教授
平成30年1~6月	Saint Louis University, School of Nursing, Visiting Associate Professor
令和 3年 4月	関西医科大学看護学部 地域看護学領域 准教授
令和 5年 4月	関西医科大学看護学部 地域看護学領域 教授

看護学部・看護学研究科がん看護学領域教授に就任して

がん看護学領域教授 青木 早苗



令和5年4月1日付で看護学部・看護学研究科がん看護学領域教授を拝命いたしました。まずはこのような機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私は国立病院四国がんセンターでの臨床経験を経て、看護基礎教育、大学院教育に従事してきました。本学には開設時に着任し、令和4年度より大学院博士前期課程で「がん看護高度実践看護師コース・研究者コース」を新設するなど、微力ながら学部・大学院教育に尽力してまいりました。現在は、1期生や学部ゼミ生と共に新たな気持ちでがん看護と向き合い、日々がん看護の奥深さや多様性を実感しているところです。

がん医療は、高度先進医療技術やがんゲノム医療の臨床応用を背景に、ますます個別化・複雑化しています。また、がん治療の多くが外来に移行しており、治療を受けながら地域で生活する人、治療後も長期的にがんと共に生きている人、そして人生の最期を在宅で迎える人も増えてきました。このような背景を踏まえ、がん看護学領域では、「がん予防から看取りまで『その人らしく生きる』を支え統

ける」をキャッチコピーに、がん予防から、がん罹患しても様々な課題に向き合い、その人らしい人生を最期まで歩めるような看護を探究していきます。そして、地域に根ざしたがん看護を目指し、関西医科大学と地域社会の発展に貢献できるように尽力いたします。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成 4年 3月	国立病院四国がんセンター附属看護学校卒業
平成 4年 3月	国立病院四国がんセンター 看護師
平成11年 3月	厚生省看護研修センター 看護教員養成課程 修了
平成12年 4月	国立高知病院附属看護学校 専任教員
平成19年 4月	国立病院機構愛媛病院附属看護学校 専任教員
平成20年 3月	国立大学法人高知大学大学院医学系研究科 看護学専攻(教育・管理学) 修士課程 修了
平成20年 4月	国立大学法人高知大学教育研究部医療学系看護学部門 講師
平成30年 4月	関西医科大学看護学部・看護学研究科 准教授
令和 2年 3月	高知県立大学大学院看護学研究科 看護学専攻(がん看護学) 博士後期課程 修了
令和 5年 4月	関西医科大学看護学部・看護学研究科 がん看護学領域 教授

リハビリテーション学部作業療法学科長・教授に就任して

作業療法学科科長・教授 種村 留美



令和5年4月1日付でリハビリテーション学部作業療法学科長・教授を拝命いたしました。私は、京都大学に准教授として8年、神戸大学に教授として16年、作業療法学教育に従事して参りました。

作業療法学では、身体障害、発達障害、精神障害、老年期障害と分野が分かれますが、私は身体障害分野に位置し、とりわけ交通事故や脳血管障害、認知症などから生じる高次脳機能障害を専門としています。特に、評価テクノロジーによる在宅支援などをこれまでに研究してきました。神戸大学では、神戸市や他部局、国内外の他大学と産官学連携による異分野共創をテーマに、認知症予防研究やテクノロジーの開発などを行ってきました。スウェーデンのカロリンスカ研究所とは、高齢者のアシスティブテクノロジーに関する共同研究を10年以上に渡って行い、その中から生まれたテレビ・照明・エアコンのリモコンを一体化したマルチリモコンは特許を取得し、認知症や高次脳機能障害の患者様方に大変喜んでいただきました。

および治療法の開発、

赴任する直前まではJICA草の根事業で、まだベトナムでは作業療法の人材がほぼ未開拓であったため、ハノイ医科大学と共に3年半にわたって人材育成を行いました。コロナ禍にあって事業の継続は大変でしたが、これには、関西医大の友田前学長をはじめ、長谷教授やリハビリテーション学部の橋本助教、リハビリテーションセンターのスタッフの方々もご協力いただき大変感謝いたしております。

赴任後もなお一層、作業療法の学部教育やグローバルに共同研究を進めていきたい所存ですので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

昭和55年 4月	財団法人健和会長行病院(現おさゆきリハビリテーション病院)作業療法士
昭和57年 9月	医療法人麗峰会 伊豆山温泉病院 作業療法室主任
平成 7年 4月	京都大学医療技術短期大学部助教授
平成12年 3月	京都大学医学部保健学科准教授(京都大学医療技術短期大学部より改組)
平成19年 4月	神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域教授
平成21年 4月	神戸大学アジア健康科学フロンティアセンターセンター長
平成21年 4月	神戸大学大学院保健学研究科副研究科長(4期)
令和 5年 4月	関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科長・教授

リハビリテーション学部理学療法学科教授に就任して

理学療法学科教授 野村 卓生



令和5年4月1日付でリハビリテーション学部理学療法学科の教授を拝命いたしました。まずは、完成年度に向け、与えられた職務に奔走したいと考えております。

私は、特定機能病院で6年間の臨床経験を積んだのち、現在に至るまで17年間、大学教員として理学療法士養成の経験を積んでまいりました。

研究の専門分野は、「糖尿病の理学療法」です。これまでの主な成果としては、多施設共同研究を主導して、糖尿病患者における下肢筋力低下の程度、糖尿病性神経障害が下肢筋力に与える影響などを横断的・縦断的研究で明らかにしてきました。現在、医師や看護師と協同して、高齢糖尿病患者の身体的フレイル予防を目的とした介入戦略を構築するための研究に注力しています。また、「産業保健の理学療法」に関心領域としており、勤労者

における腰痛予防対策、身体活動と非アルコール性脂肪性肝疾患の関連などをテーマにして、研究を継続しています。

これまでの経験を生かしつつ、全力を尽くして関西医科大学の発展に貢献すると共に更なる理学療法分野の研究に精進する所存です。私の座右の銘は「一期一会」であり、皆様との一つ一つの出会いを大事にしたいと考えています。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

略歴

平成12年	高知医科大学病院リハビリテーション部 理学療法士
平成15年	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程 修了
平成18年	高知女子大学大学院健康科学科研究科博士後期課程 修了
平成18年	大阪府立大学総合リハビリテーション学部理学療法専攻 助教
平成19年	大阪労災病院勤労者予防医療センター 研修員
平成21年	大阪保健医療大学保健医療学部理学療法専攻 准教授
平成23年	関西福祉科学大学保健医療学部理学療法専攻 教授
令和 5年	関西医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授

心臓血管外科学講座教授退任にあたって

心臓血管外科学講座前教授 湊 直樹



平成21年4月の着任以来14年間、大変お世話になりました。名誉ある歴史と発展性豊かな土壌を作ってこられました皆様とともに働いたことを感謝いたします。

私を含め心臓血管外科5人、呼吸器外科4人の少人数で始まりましたが、血管外科、小児心臓外科を開設し、胸部・腹部大動脈瘤へのステントグラフト、小児心臓手術と診療の幅が広がりました。学生の入局が少ない中、

「講座の将来は学生にあり」と考え、学生勧誘を積極的に行ないました。学生にブタ心臓で手術経験をさせますと、皆さん感激し「心臓外科に入ります!」と言います。実際は、なかなか入局に結びつかず、また、結びついた数少ない入局者も長続きせずという結果でした。世の中の学生、研修医の動向が、ここにあることを実感する次第です。

手術患者さんで最も印象に残るのは、野球人のお二人、77歳時に

冠動脈バイパス(CABG)を受けたTさんと、68歳の時にCABG、さらに腹部大動脈瘤の人工血管置換を受けたSさんです。二人とも術後も野球を続け、別チームで古希野球リーグを戦い、平成25年NHK「おはよう日本」では81歳Tさんが、72歳Sさんの投球を痛烈なライナーで打ち返し走る映像が放映されました。Tさんは米寿を迎えたのち89歳で永眠されましたが、最後までグラウンドに出ておられたと聞いています。Sさんは82歳の現在も投手を続け、また少年野球指導者として元気に活躍されています。狭心症もなく80歳を越えて活動的な人生を楽しむお二人を外来で診て、「手術は元の生活を取り戻すための手段」、「心臓手術後も全く問題なく運動できる」、「CABGのevent-freeの遠隔成績が優れている」ことを再確認でき、心臓血管外科医として自信を深めることができました。患者さんの人生に良い方向で力になれたことは最高の幸せです。

最後に、強く元気な体、継続力、工夫力、あきらめない心を育ててくれた両親、また、一日もかかさず昼の弁当を持たせて私を送り出してくれた妻に感謝します。

退任のご挨拶



附属病院の枚方移転後、8年間休止していた旧滝井病院の心臓外科診療を再開することが、私に課せられた第一の任務でした。平成25年4月に赴任して今年で早10年、この節目の年を迎えて診療の第一線から退くことにさせて頂きました。ここ2-3年、後進の成長ぶりを見届けることができたことと、喜寿を迎えた我が歳に鑑みての決断というのが正直なところです。これまで現役心臓外科医として、長きに亘り充実した日々を過ごすことができましたのも、ひとえに理事長はじめ関係者の皆様のご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

振り返って見ますと当時の滝井病院循環器内科には、心臓外科再開にかける熱い思いが溢れていたことを思い出します。関西医大と

附属病院ハートセンター前理事長特命教授 川副 浩平

縁もゆかりも無い寄せ集めの外科チームにとって、これが大きな救いでした。順調に滑り出した5年後の平成30年には、附属病院心臓外科の極端な人員不足をカバーするため、総合医療センターの全員が附属病院へ移動することになりましたが、両病院の間で協力体制を組んで診療を継続することができました。その効果は、コロナ禍直前の両病院で行った手術件数の増加傾向として表れました。今後の心臓外科を取り巻く環境を考えますと、附属病院と総合医療センターが one team になって診療にあたる体制の必要性が教訓として残ります。

さて、私はこの4月から、総合医療センターの病院長付特別顧問として勤務させて頂きます。もうしばらくご交誼くださいますようお願い申し上げます。

総合医療センター肝臓病センター理事長特命教授 退任にあたって

総合医療センター肝臓病センター前理事長特命教授 關 壽人



平成29年4月より6年間理事長特命教授を拝命し、関西医科大学総合医療センター肝臓病センター長として勤務させて頂きましたが、令和5年3月末をもちまして退任いたします。

この間、兼務しておりました、副病院長、薬剤部長、医療情報部長、診療情報分析室長も退任いたします。

関西医科大学総合医療センター（旧関西医科大学附属滝井病院）は、平成20年7月に大阪府内5カ所の肝疾患診療連携拠点病院の1つとして厚生労働省から指定を受けました。

主に北河内医療圏を担当する国指定の拠点病院としての事業を円滑に遂行するため平成21年3月、院内に肝臓病センターが開設され

ました。

それ以降、肝臓病センターは、関連各科が協力して行う、肝疾患診療および研究に対する支援のほか、拠点病院として、院内外の医療従事者や地域住民を対象とした研修会や講演会などの開催、肝疾患に関する相談、肝疾患に関する専門医療機関との連携の場を設定することを目的として活動してまいりました。この間、センターの運営にあたり院内各部門の皆様には、長きに渡りご協力をいただき誠に有り難うございました。

尚、私は特命教授退任後、非常勤ですが、肝臓病センター顧問として肝臓病の診療、肝臓病センターのサポートを継続していく予定です。

本院は、今後も拠点病院としての責務を全うしなければなりません。引き続きのご協力を何卒宜しくお願い致します。

麻酔科学講座診療教授退任にあたり



前主任教授新宮興先生と広田喜一先生からお声をかけていただいたのが契機となり平成28年1月、麻酔科小児麻酔担当診療教授として着任しました。小児麻酔の診療教授として何をすべきか日々自身に問いかけながらの試行錯誤が続いたように思います。温かく迎えて下さった医局の皆様、お世話になった多く

の方々から感謝申し上げます。

教育面では、多くの若手医師の小児麻酔学会の認定医取得を心がけました。本学は研究発表への支援も手厚く、長年関わっていた周術期の小児にワクチンが及ぼす影響について集大成することができました。また当院の小児の手術症例数が豊富なことから始めた、た

麻酔科学講座前診療教授 大井 由美子

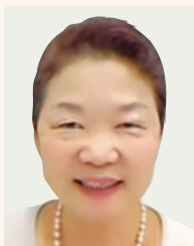
ばこ環境煙の周術期の小児への影響を中心とした臨床研究では小児麻酔学会において優秀賞を受賞することができました。

麻酔だけではなく、ペインクリニック診療にも再開当初より関わることができ、産学連携では、O2腹巻を商品化させていただいたり、オール女性医師キャリアセンターでは麻酔科担当としてキャリアモデルの作成をしたり、本学では多くのことを学び経験させていただきました。7年余りの短い間でしたが、刺激的で充実した年月でした。今後は、本学で培った経験と知識を活かし社会に貢献することを考えています。

慈心眼鏡のもと、愛ある医師を育てる大学として、益々のご発展を心より祈念いたしております。どうもありがとうございました。

退任のご挨拶

看護学教育領域前教授 安酸 史子



看護学部の開設時に着任し、看護学教育領域の教授として5年間勤め、定年を迎えました。博士前期課程と博士後期課程も同時立ち上げでしたので、初年度から院生指導に携わることが出来たことはとても嬉しいことでした。博士前期課程では、臨床看護教育者(Clinical Nurse Educator : CNE)コースを担当しました。臨床看護教育者(CNE)とは、看護実践の場において優れた教育的機能を発揮することが出来る教育者を意味します。CNEは、看護界での認知度が発展途上にあり、養成課程も限られているため、まだ認定の制度は整っていない、今後構築していくこととなりますが、今年の修了生を含めて7名のCNE候補者を輩出できました。

博士後期課程の学生たちとのディスカッションはとても刺激的でした。また、令和元年には関医・看護師リカレントスクールのプログラム開発を担当し、6期生の修了まで見届けました。令和3年4月には新設された看護キャリア開発センターの副センター長と関医・看護師リカレントスクール部門長を拝命しました。看護部と看護学部の橋渡しの役割を担うことが看護学教育領域のミッションの一つだと考えておりましたので、看護部での実地指導者研修、実習指導者研修、管理者研修などを担当させていただけたことも有難く、関西医大での5年間ではとても充実した仕事をさせていただきました。今後とも、看護部との連携が強化され、看護学部・看護学研究科がますます発展することを心からお祈りしております。

看護学部地域看護学領域教授退任にあたって

地域看護学領域前教授 上野 昌江



平成30年に新設された看護学部・大学院看護学研究科に平成31年4月に地域看護学領域教授として着任し、令和5年3月末に無事任期をおえることとなりました。4年間という短い期間でしたが、学部教育、大学院教育、研究などとても濃厚な時間を体験させていただきました。在任中にお世話になりました多くの皆様に感謝申し上げます。

着任した開設2年目は、地域看護学領域における教育が本格的に始動する時期であり、学生全員が保健師国家試験受験資格取得する教育を円滑かつ充実した内容にするために地域看護学領域の先生方、実習にいく現地の方と話し合いを重ねながらすすめてまいりました。おかげさまで関西医科大学における地域看護学教育を一定の軌道にのせることができたと考えます。

学生と一緒に向う地域実習のなかで関西医科大学がいかに地域に根付いているかということを感じることが多々ありました。関西医科大学が培ってこられた地域の方々の信頼関係のなかに看護学部が参入すべく、新型コロナウイルス感染症対策において業務が逼迫していた枚方市保健所への支援を行いました。また社会福祉協議会のご協力をいただいている生活看護論実習では校区福祉委員の活動に学生が継続的に参加し、健康増進に向けた活動を展開しました。地域のなかで学生たちが日々進化していく姿に私たちもはげまされました。このような活動が関西医科大学と地域との信頼にますますつながっていくと確信しています。

退任後は私自身の研究テーマである子ども虐待予防についての研究や現場の看護職と協働した活動を行っていきたくと考えております。

関西医科大学のますますの発展を心からお祈りしております。

令和4年度医学部教員評価優秀者表彰式を開催

医

3月16日(木) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和4年度の「医学部教員の活動状況調査票」に基づく教員評価優秀者への表彰式が開催されました。本学では、平成15年から、「教員個人の活動状況を定期的に点検・評価することにより、教員活動の激励または改善のための助言を行い、本学の教育、研究、診療などの向上を図ること」を目的に教員評価を行っています。対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰(※)しており、今年度は准教授6名、講師15名、助教29名が選出されました。表彰式では友田幸一学長か

ら受賞者に表彰状と副賞が贈呈されました。教員評価表彰者一覧はホームページに掲載しています。

※…各職位において通算3回表彰された教員は対象外



学長から表彰を受ける受賞者



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	4月1日	木梨達雄新学長就任
	4月3日	入職式
	4月5日	交流センターラウンジオープン
大学	10月19日	医学部特別講義医師会長特別講演
	11月18日	大阪大学との包括連携協定締結
	2月24日	学長賞・川柳表彰式
	3月1日	令和4年度医学部卒業式
	3月1日	研究医養成コース修了証授与式
	3月16日	退任教授最終講義(看護学部安酸教授)
	3月16日	教員評価成績優秀者表彰式
	3月16日	国家試験結果発表(医師)
	3月17日	大学院看護学研究科学学位授与式
	3月18日	女性医師奨励賞(アプリコット賞)授賞式
	3月20日	令和4年度看護学部卒業式
	3月24日	国家試験結果発表(看護師・助産師・保健師)
	3月28日	大学院医学研究科学学位記授与式
	3月28日	医学会賞受賞者贈呈式
4月5日	令和5年度入学式	
病院	2月25日	4病院合同看護研究発表会
附属病院	2月13日	北河内がん就労支援セミナー
	2月21日	小児入院患者オンライン遠足(がんセンターAYA世代チーム共催)
	3月31日	がん外見ケアセミナー(がんセンターAYA世代チーム共催)
	3月4日	地域連携Webセミナー
総合医療センター	3月4日	防災訓練
香里病院	2月18日	地域連携Webセミナー
卒後臨床研修センター	3月24日	研修医修了式
看護キャリア開発センター	1月7日	専門・認定看護師活動支援部門講演会
	1月24日	関医・看護師リカレントスクール第1回同窓会



令和4年度医学部卒業式



令和4年度看護学部卒業式



附属病院小児入院患者オンライン遠足



総合医療センター防災訓練

看護学教育領域安酸教授最終講義

看

3月16日(木) 16時から枚方キャンパス看護学部棟3階講義室3において、看護学教育領域安酸史子教授の最終講義が開催されました。「看護学教育におけるケアリング文化の形成を目指して」と題した講演を、オンラインでの参加も含め多くの学生、教職員などが聴講。講義では、安酸教授が自身のこれまでの経歴を振り返りながら、ケアリング文化の形成という研究テーマに関心を持ったきっかけ、看護学教育に対する思いなどを語りました。

講義後には、加藤令子学部長が挨拶に立ち、安酸教授のこれまでの貢献を称え、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後に最終講義は閉講しました。



講義を終え撮影に応じる安酸教授

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

～世界をリードする「5つ星」の医科大学を目指して～ 皆様からのご協力をお願い申し上げます

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わり心より厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。

英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2023において、国内では国公私立の総合大学を含めて11位、私立大学では1位となりました。ここ数年継続的に高い評価を受けており、これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

施設設備の整備につきましては、昨年度は、予防医療として“健診センター”、健康維持のための“メディカル・フィットネス”の2つの機能を持つ「くずは駅中健康・健診センター」を開設いたしました。本年は、昨年度から実施しております附属病院別館建設事業と総合医療センター西館建設計画を順次進めてまいります。

本学が、【高い教育・研究・診療力を持つ大学】、【本学の学生・教職員・同窓生が心から誇れる大学】、【患者さんから信頼される大学(病院)】、【国内外から高い評価を受ける大学】、【社会に貢献する大学】として発展するために、本年度も別添のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人、その他

2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出いただき、本学指定の銀行口座にお振込み、又は、ご持参ください。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A) 所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。

※寄付金額は総所得金額等の40%が限度。

(B) 税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入できます。

■住民税

大阪府にお住まいの方は府民税減税対象となります。

(大阪府と住所地の市町村に住所・氏名・寄付金額・寄付金受領日を提供いたします。)

所得税が最大 40% 減額されます

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344

メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP: <https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

なお、この募金の応募は任意です。

相続財産・遺贈によるご寄付も承ります

【相続財産によるご寄付】

●相続財産によるご寄付とは…… 相続人様が、故人様のご遺志に沿って相続財産から本学に寄付する制度です。

・本学にいただいたご寄付は申告することにより、その分の相続税を非課税にすることができます。

・相続財産によるご寄付は、現預金のみお受けしております。

【遺贈によるご寄付】

●遺贈によるご寄付とは…… 遺言によって資産の全部、または一部を本学に寄付する制度です。

・サポートが必要な場合は、本学から三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行をご紹介しますことができます。

ただし、信託銀行へ手数料が発生いたします。

【遺言信託業務協定先】

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部 (06-6220-2515)

三菱UFJ信託銀行梅田支店 (06-6366-0401)

令和5年1月から令和5年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

令和4年度医学部卒業式

3月1日(水) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第69回医学部卒業式」が執り行われました。昨年度に引き続き、今年度の卒業式も新型コロナウイルスの影響により、規模の縮小、内容も変更した形で実施。卒業生の保護者が別室にて中継映像を視聴する中、卒業生114名が式に臨みました。学位記授与では卒業生の氏名が読み上げられたのち、友田幸一学長から卒業生代表に学位記が直接手渡されました。卒業生たちは友田学長の式辞を傾聴し、卒業生総代感謝の言葉では、医師として社会に出る覚悟と決意、教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への6年間の感謝の言葉が語られました。



式辞を読み上げる友田学長

学長式辞

学長 友田 幸一

91回生の卒業生の皆様、また、これまで学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。

さて、本日、ここに計114名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また学長としての任期最後の卒業式となり、感慨無量の思いであります。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思います。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。また今回の新型コロナウイルスのように新たな病原体との戦いは人類の永遠の課題であり、医師は常にその最前線で患者の治療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界は大きく様変わりすることが予想されます。英国のリンダ・グラットン教授によれば平成19年に日本で生まれた子供の半分は107歳まで生きると言われています、平均寿命の延伸とともに健康寿命の延伸も求められる時代を迎え、高齢者の尊厳の保持と、自立生活支援を目的とした「地域包括ケア」、すなわち在宅・介護・福祉も強化する必要があります。関西医大は、すでに附属の4病院に地域医療を支える体制を整えてきました。皆さんは、高度先進・専門医療だけでなく、新たに地域医療に必要な知識を学び、経験を積むことができます。

一方、医学界での技術革新は今後一層進展することが予測され、その時代を見据えた医療、研究が必須となってきます。本学では昨年4月からアメリカ、NIHの小林久隆教授を所長に招き、国内で唯一の光免疫医学研究所が設置され、新しく「第5のがん治療」として注目される光免疫療法の研究と診療が本格的に始動しました。

皆さんは、これからの長い医師人生において、自身のキャリア形成のためにも、大学病院でこそ実現可能な臨床研究や、大学院に入り学位を取得することや留学することは極めて意義のあることです。高い志を持って科学に根差した医療を目指す医師になって欲しいと思います。

本学は今年創立95年を迎えます。安定した財政基盤に支えられ本学は一流の大学を目指しています。山下理事長の年頭所感でも述べられたように、「高い教育・研究・診療力を持つ大学」、「本学の学生・教職員・同窓生が心から誇れる大学」、「患者さんから信頼される大学・病院」、「国内外から高い評価を受ける大学」、「社会に貢献する大学」です。そしてもう一つは、学長としてこれまで目指してきた「世界に開かれた大学」です。

名実ともにこれらを達成するためには、皆さん一人ひとりの力と母校愛と国際性が重要で、卒業生としての誇りをもって関西医科大学の更なる発展のために大いに貢献してくれることを願っています。

最後になりますが、皆さんはこれまで培ってきた「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きることをひと時も忘れることなく、それぞれのプロフェッショナルの道を究め、一人ひとりが一隅を照らす存在になってください。本日はご卒業誠におめでとうございます。

令和4年度看護学部卒業式

看

3月20日(月)13時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第2回看護学部卒業式」が執り行われました。平成30年4月に開設した看護学部は、今年第2期生となる卒業生を輩出しました。学位記授与では98名の名前が読み上げられ、友田幸一学長から卒業生の代表に学位記が手渡されました。続いて、友田学長による式辞の後、看護学部加藤令子学部長から祝辞が述べられ、看護師、保健師、助産師それぞれの進路に進む卒業生にエールが送られました。

その後、卒業生代表の小嶋伸さんから感謝の言葉が述べられた後、祝電披露に続いて在学中の成績優秀者の学生への表彰が行われました。



祝辞を述べる加藤学部長

看護学部長 祝辞

看護学部長 加藤 令子

春爛漫の今日の良き日に、ご卒業を迎えられた98名の卒業生の皆様、おめでとうございます。

本日卒業を迎えられた皆様は、この加多乃講堂で入学式を行い、入学後には淡路島で医学部と合同合宿に参加し、1学年次は学内で通常の大学生活を送ることができました。しかし、その後人々が想像もしていなかった新型コロナウイルスのパンデミックにより、学修方法の変更を強いられ、講義は遠隔授業、演習は学内でマスクとフェイスシールドを着用しての実施、特に2・3学年次の実習は思い描いていたものとは異なる多くの制約の中での実施という学生生活を送られ、今日を迎えることになりました。しかし、皆様は人と直接語り合うこと、人に寄り添うこと、人と協働しながら物事をすすめることの重要性を理解という認知的側面だけではなく、感情も含め実体験として感じられていることでしょうか。この体験こそが、実は看護の本質にかかわる重要なことだと思っております。

本学部の目指す教育は、時代や地域を越えて通用する「看護の力」を培うことです。本学部のディプロマ・ポリシーは8項目あり、その中に「看護の力を信じ、未知なる可能性へと行動を起こすことができる」があります。

看護は「アートとサイエンス」であると言われております。サイエンスは、エビデンスに基づいた科学的な根拠の基に行うケアを意味します。医療は日々進歩していますので、自己研鑽の基に根拠に基づいたケアを構築していくことは専門職者としての責務と言えます。一方アートは、そのひとの生きている意味、価値観、感情やその人のもつ力、弱みなど、すべてをホリスティックにとらえ、自己の感情を越え、その人に寄り添い受け入れてケアをすることです。

アメリカの哲学者ミルトン・メイヤロフは著書『ケア

の本質』の中で、「自分以外の人格をケアするには、私はその人とその人の世界を、まるで自分がその人になったように理解できなければならない。その人にとって人生とは何なのか、その人は何になろうと努力しているのか、成長するためにその人は何を必要としているのかなど、その人の“内面”から感じとるために、その人の世界に“入り込んで”いくわけである。」

また、「他者の中に私が理解できるものは、私が自分自身の中で理解できるものだけなのである。」と述べています。このようなことから、多様な人生経験をもつ方々とかかわらせていただく専門職としての看護職者には、自分自身の視野を広げ多くの経験を重ね自己成長することが求められるのです。友人との交流、ご自身の趣味や活動を続けられること、文学・音楽・絵画などの芸術に触れること、自然に身をゆだねることも大切になります。

現在、社会は多様化・複雑化しています。今後益々、多様化・複雑化は国内外ですすむことでしょう。

皆様には国内だけではなく世界にも目を向け、最新の知識だけではなく、多様な文化や価値観、人々の生活のあり様など多くのことを学び・感じ取り、アートとサイエンスの両方の力を高めていただきたいと思います。

本日の卒業生98名中、現在79名が附属施設へ、11名が他施設への就職予定です。

この予定者の中で7名が助産師として採用されました。他、5名は保健師として採用され、2名が本学大学院博士前期課程に進学致します。

看護学を学んだことに誇りを持ち、本学での学びを土台として今後は様々なことにチャレンジし、専門職者として自己成長に努めていただくことを期待して祝辞と致します。

ご卒業おめでとうございます。

令和5年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(水)	入学式
4/6(木)~10(月)・13(木)	新入生健康診断・ガイダンス
4/11(火)・12(水)	合宿研修
4/13(木)	1学期開講
5/3(水)~5/5(金)	休講(5月連休)
6/30(金)	創立記念日
7/19(水)	1学期終講
7/21(金)~8/18(金)	夏季休業(期間内に臨床実習P1a(早期体験実習))
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
12/22(金)	2学期終講
12/25(月)~1/5(金)	冬季休業
1/9(火)	3学期開講
2/29(木)	総合試験
2/29(木)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

2学年	
4/6(木)	1学期開講
4/19(水)	学生定期健康診断
5/3(水)~5/5(金)	休講(5月連休)
6/30(金)	創立記念日
7/14(金)	1学期終講
7/24(月)~8/18(金)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
12/18(月)	2学期終講
12/25(月)~1/5(金)	冬季休業
1/9(火)	3学期開講
1/26(金)・30(火)・31(水)	臨床実習P2(看護実習)
2/28(水)	総合試験
2/28(水)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

3学年	
4/4(火)	1学期開講
4/18(火)	学生定期健康診断
5/3(水)~5/5(金)	休講(5月連休)
5/15(月)	解剖体追悼法要
6/16(金)・19(月)・7/10(月)	臨床実習P3(医療面接入門)
6/30(金)	創立記念日
7/24(月)	1学期終講
8/1(火)~8/18(金)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
12/18(月)	2学期終講
12/25(月)~1/5(金)	冬季休業
1/9(火)	3学期開講
1/22(月)~2/16(金)	リサーチP3(配属実習)
3/1(金)	総合試験
3/1(金)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

4学年	
4/5(水)	1学期開講
4/19(水)	学生定期健康診断
5/3(水)~5/5(金)	休講(5月連休)
6/30(金)	創立記念日
7/7(金)	1学期終講
7/10(月)~8/18(金)	夏季休業(期間内に人間P4(社会医学実習))
8/21(月)	2学期開講
10/11(水)~11/10(金)	臨床実習P4a(総合臨床医学実習)
10/17(火)	共用試験CBT
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
11/13(月)~11/20(月)	臨床実習P4b(医療情報学)
11/17(金)・18(土)	Pre-CC OSCE
11/28(火)~12/18(月)	臨床実習P4c(プレクリニカル・クラークシップ)
12/18(月)	2学期終講
12/19(火)~1/5(金)	冬季休業
1/9(火)	3学期開講
1/9(火)~3/22(金)	臨床実習
3/6(水)	卒業式
3/22(金)	3学期終講

5学年	
4/3(月)	1学期開講
4/3(月)~7/28(金)	臨床実習
4/18(火)	学生定期健康診断
5/1(月)~5/5(金)	休講(5月連休)
未定	CC中間検討会
6/30(金)	創立記念日
7/28(金)	1学期終講
7/31(月)~8/18(金)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
8/24(木)	中間試験
8/28(月)~10/27(金)	臨床実習
11/1(水)	クリニカル・クラークシップ総合試験
11/6(月)~12/22(金)	臨床実習
12/22(金)	2学期終講
12/25(月)~1/5(金)	冬季休業
1/9(火)	3学期開講
1/9(火)~3/22(金)	臨床実習
3/6(水)	卒業式
3/22(金)	3学期終講

6学年	
4/3(月)	1学期開講
4/3(月)~7/21(金)	臨床実習
4/7(金)	学生定期健康診断
5/1(月)~5/5(金)	休講(5月連休)
6/30(金)	創立記念日
7/21(金)	1学期終講
7/24(月)~8/18(金)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
8/22(火)	卒業試験①
8/24(木)~10/13(金)	まとめの講義(予備・自習含む)
9/30(土)	Post-CC OSCE
10/18(水)・19(木)	卒業試験②
10/23(月)~11/7(火)	まとめの講義(予備・自習含む)
11/21(火)・22(水)	卒業試験③
11/22(水)	2学期終講
11/23(木)	冬季休業開始(以降自習期間)
12/21(木)	卒業判定用試験
3/6(水)	卒業式

令和5年度 看護学部教務関係日程表



1~4年次	
4/3(月)	健康診断(2・3・4年)
4/5(水)	入学式
4/4(火)~4/7(金)	在学生オリエンテーション
4/6(木)~4/10(月)	新入生オリエンテーション
4/10(月)	2~4年生1学期開講
4/12(水)	1年生1学期開講
4/13(木)	健康診断(1年)
4/21(金)~4/22(土)	1年生合宿研修
6/30(金)	創立記念日
7/10(月)~7/21(金)	学期末試験期間
7/21(金)	1学期終講
8/7(月)~8/20(日)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
11/13(月)~11/17(金)	学期末試験期間
11/17(金)	2学期終講
12/4(月)	3学期開講
12/25(月)~1/3(水)	冬季休業
2/26(月)~3/1(金)	学期末試験期間
3/1(金)	3学期終講

令和5年度 リハビリテーション学部教務関係日程表



1~3年次	
4/5(水)	入学式
4/5(水)~4/10(月)	新入生オリエンテーション
4/6(木)~4/7(金)・4/14(金)	在学生オリエンテーション
4/6(木)	2・3年生前期開講
4/7(金)	1年生前期開講
4/13(木)	健康診断(2・3年)
4/14(金)	健康診断(1年)
6/30(金)	創立記念日
8/1(火)~8/10(木)	学期末試験期間
8/10(木)	前期終講
8/14(月)~9/30(土)	夏季休業
10/2(月)	後期開講
11/3(金)~11/5(日)	学園祭
12/27(水)~1/5(金)	冬季休業
1/30(火)~2/9(金)	学期末試験期間
2/9(金)	後期終講
2/12(月)~3/31(日)	春季休業

大学関係役員



4月1日から、大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	木梨達雄	看護学部教務部長	酒井ひろ子	大学院医学研究科教務副部長	中邨智之
副学長	岡田英孝	リハビリテーション学部教務部長	佐藤春彦	大学院看護学研究科教務部長	瀬戸奈津子
副学長	齋藤貴徳	医学部教務副部長		附属図書館長	伊藤量基
副学長	金子一成		Raoul BREUGELMANS	附属生命医学研究所長	日笠幸一郎
医学部長・医学研究科長	金子一成	学生部長	谷崎英昭	総合研究施設長	清水(小林)拓也
看護学部長・看護学研究科長	加藤令子	学生副部長	西山利正	実験動物飼育共同施設長	大隈 和
リハビリテーション学部長	飯田寛和	学生副部長	北田容章	アイソトープ実験施設長	塩島一朗
リハビリテーション学部 理学療法学科長	池添冬芽	学生副部長(看護学部)	覚道奈津子	入試センター長	中川 淳
リハビリテーション学部 作業療法学科長	種村留美	学生副部長(リハビリテーション学部)	近藤麻理	教育センター長	西屋克己
医学部教務部長	岡田英孝	大学院医学研究科教務部長	吉村匡史	国際化推進センター長	友田幸一
			人見浩史	学 医	薬師寺祐介



令和5年度医学部クラスアドバイザー、看護学部、リハビリテーション学部クラス担任

令和5年度のクラスアドバイザーおよびクラス担任が次のとおり決定しました。

【医学部】

第1学年	Raoul BREUGELMANS 教授(英語)
第2学年	大隈 和 教授(微生物学)
第3学年	蓮尾英明 教授(心療内科学)
第4学年	村川知弘 教授(呼吸器外科学)
第5学年	伊藤量基 教授(内科学第一)
第6学年	木下秀文 教授(腎泌尿器外科学)

【看護学部】

1年次	谷水名美 准教授(クリティカルケア看護学領域)
2年次	矢山 壮 准教授(精神看護学領域)
3年次	太田祐子 准教授(看護学教育領域)
4年次	青木早苗 教授(がん看護学領域)

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	1年	前澤仁志 准教授	作業療法学科	1年	加藤寿宏 教授
	2年	佐藤春彦 教授		2年	福井信佳 教授
	3年	中野治郎 教授		3年	吉村匡史 教授

令和5年度入学試験結果



令和5年度入学試験結果は以下の通りです。

※令和5年4月1日時点

医学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験	60	10	10
地域枠学校推薦型選抜試験(大阪府)	31	5	5
地域枠学校推薦型選抜試験(静岡県)	46	8	8
地域枠学校推薦型選抜試験(新潟県)	11	2	2
一般枠学校推薦型選抜試験	348	16	4
特色選抜試験	68	11	6
一般選抜試験(前期)	2,224	127	69
一般選抜試験(後期)	468	3	5
大学入学共通テスト利用選抜試験(前期)	1,115	53	4
大学入学共通テスト利用選抜試験(後期)	135	3	1
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	931	68	13
計	5,437	306	127

看護学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
学校推薦型選抜試験(専願制)	152	26	26
〈併願制〉	100	12	5
一般選抜試験(2教科型)	368	55	11
〈3教科型〉	461	112	53
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	213	33	3
〈3教科型〉	244	30	2
一般選抜試験 追試験	1	1	1
計	1,539	269	101

リハビリテーション学部(理学療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	35	10	10
学校推薦型選抜試験(専願制)	25	22	22
〈併願制〉	12	11	9
一般選抜試験(2教科型)	36	12	5
〈3教科型〉	49	17	14
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	59	13	3
計	216	85	63

リハビリテーション学部(作業療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	30	9	9
学校推薦型選抜試験(専願制)	11	10	10
〈併願制〉	9	8	4
一般選抜試験(2教科型)	23	17	5
〈3教科型〉	30	21	11
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	28	26	5
計	131	91	44

大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	3	3	3
追加募集	4	2	2
計	7	5	5

大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	27	26	25
追加募集	11	11	11
計	38	37	36

大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	11	0	9	0	7	0
冬期日程	3	1	1	1	1	1
計	14	1	10	1	8	1

第117回医師国家試験結果

医

3月16日(木)に第117回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者114名のうち107名が合格し合格率は93.9%、新卒および既卒を合わせた受験者総数では、本学受験者122名のうち111名が合格し合格率は91.0%でした。新卒の合格率は、私立医科大学31校中19位でした。

次年度へ向け、低学年からの学力引き上げを目指し、教職員一丸となって取り組む予定です。

看護師・保健師・助産師国家試験結果

看

令和5年3月に看護学部を卒業した第2期生は、卒業生98名全員が看護師国家試験に合格、92名が保健師国家試験に合格、さらに選択制である助産師コース卒業生7名の全員が、助産師国家試験に合格しました。

看護学部生全員が看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるのは、関西圏の私立大学では本学だけです。医学部・リハビリテーション学部と多彩な附属医療機関を持つ本学ならではの環境、地域を意識した本学独自のカリキュラムや充実したバックアップ体制が今回の結果につながりました。

令和5年3月卒業生(新卒者)国家試験結果

国家試験	回数	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均	
					新卒者(%)	全体(%)
看護師	112	98	98	100.0	95.5	90.8
保健師	109	98	92	93.9	96.8	93.7
助産師	106	7	7	100.0	95.9	95.6

令和5年3月度大学院医学研究科学学位記授与式挙行

医

3月28日(火)15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、人見浩史大学院医学研究科教務部長、中邨智之大学院医学研究科教務副部長や指導教員らが列席し「令和5年3月度学位記授与式」が挙行され、課程博士16名、論文博士4名、修士6名に、友田学長から学位記が授与されました。その後の学長式辞では学位取得者の努力を労い、激励の言葉が贈られました。



学位記を手にする授与者

令和4年度大学院看護学研究科学学位授与式挙行

看

3月17日(金)10時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、友田幸一学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席し「令和4年度大学院看護学研究科学学位授与式」が挙行されました。式の中では、友田学長から学位記が博士前期課程の修了生10名に授与されました。その後、友田学長の告辞、加藤看護学研究科長からの祝辞がのべられ、修了生たちの学位取得の努力を労い卒業後の新たな一歩を祝福する言葉が贈られました。



祝辞を述べる加藤研究科長

第22回 関西医科大学医学会賞

令和4年11月5日(土)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第22回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。選考の結果、第22回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名には、3月28日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂で行われた贈呈式にて医学会賞が授与されました。

1位 衛生・公衆衛生学講座 方 軻 大学院生

■演題「Unkeito Suppresses RANKL-Mediated Osteoclastogenesis via the Blimp1-Bcl6 and NF- κ B Signaling Pathways and Enhancing Osteoclast Apoptosis」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。私は大学院博士課程に進学後、閉経後骨粗鬆症の予防を目的とした基礎研究を行ってきました。本研究では、更年期症状に対して婦人科で処方される温経湯が破骨細胞分化のシグナル経路を阻害することを初めて報告しました。さらに閉経後骨粗鬆症モデルマウスにおける温経湯の骨減少抑制効果を明らかにすることができました。温経湯の骨粗鬆症予防に対する臨床応用を目指して、現在も中国で研究を継続しています。研究の遂行にあたり衛生・公衆衛生学講座の西山利正教授、教室員の先生方に多大なるご指導、ご協力を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



2位 産科学・婦人科学講座 横江 巧也 助教

■演題「Detection of human coronavirus RNA in surgical smoke generated by surgical devices (サージカルスモーク中のヒトコロナウイルスRNAの検出、及び感染性の定量、感染防御の方法について)」

この度は、名誉ある関西医科大学医学会賞の受賞を賜り、大変光栄に存じます。私は2019年に本学大学院に進学し、外科手術で生じるサージカルスモークに関する研究に着手しました。COVID-19のパンデミックを受け、骨盤外科領域の体液が大量のウイルスを含有されているという知見を基に、コロナウイルスを使用したモデル実験を計画しました。そして新型コロナウイルス患者をエネルギーデバイスで手術する際の、感染性と感染防御の効果について報告することができました。本研究にあたり多大な御指導を賜りました北正人診療教授、微生物学講座の先生方に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



3位 小児科学講座 山岸 満 先生

■演題「Decreased butyric acid-producing bacteria in gut microbiota of children with egg allergy」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、誠にありがとうございます。私は小児腸内細菌叢の研究に携わりながら小児アレルギー疾患の診療を行ってきました。今回、卵アレルギーを有する小児では酪酸産生菌の減少に特徴づけられる腸内細菌叢の乱れが存在することを初めて報告することができました。本賞受賞を励みとして、今後は腸内細菌叢をターゲットとした食物アレルギーの新たな治療法や予防法の開発にも貢献できるよう引き続き邁進してまいりたいと思います。この場をお借りして、本研究にあたり多大なご指導を賜りました金子一成教授ならびに小児科学講座の先生方に心から御礼申し上げます。



学長賞・川柳表彰式

2月24日(金) 17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和3年度分学長賞授与式」が執り行われ、友田幸一学長から受賞者に表彰状と副賞が贈られました。

その後挨拶に立った友田学長が、これまでの学長賞審査で重視していた部活動などの活動に加え、研究や文化活動での功績も加味して今回の受賞者を選定したことに触れながら、受賞者の努力と栄誉を称えました。

また学長賞表彰式に続けて、「令和4年度医学部1学年課題川柳表彰式」が執り行われ、友田幸一学長から最優秀賞受賞者に表彰状が贈られました。

◆学長賞

(クラブ活動賞) 準硬式野球部

(文化活動賞)

4年 高原 諒さん 5年 田畑 凱光さん

5年 三浦 雅郁さん 6年 緒方 隼さん

6年 武田 宣真さん 6年 中島 啓子さん

◆課題川柳

(最優秀賞) 長谷川 祐亮さん

「未来へと 続く道は 弛まぬ精進」

(優秀賞) 大山 諒祐さん

「枚方に 集いし同志 永遠に」



学長賞受賞者



川柳最優秀賞受賞者

第2回 女性医師奨励賞（アプリコット賞）受賞者決定

3月18日(土) 14時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第2回女性医師奨励賞(アプリコット賞)表彰式が行われました。この賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、優れた成果を納めた人物を表彰するために令和3年度に創設されたもの。女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、更なる活躍を支援することを目的としています。

今回受賞した3名には、植村芳子センター長、覚道奈津子副センター長から受賞者へ賞状や記念品が手渡されました。表彰式の後は、関係者が参集して懇親会が行われました。



参加した受賞者と植村センター長(左)・覚道副センター長(右)

第2回女性医師奨励賞(アプリコット賞)受賞者

● 教育部門

放射線科学講座 河野 由美子 診療講師

コメント：女性医師奨励賞をいただきありがとうございます。正直なところ、まだ未熟な私が表彰を受けるなど、恥ずかしさが勝ります。今回、選んでいただけましたのも、先輩や同僚、後輩の皆に助けられてこそその受賞だと思います。医学教育や研修制度も変化し続けていて、自分にできることはなんだろうと自問しながらではありますが、この受賞を励みに、本学での教育へも微力ながら尽力していきたいと思えます。

● 研究部門

皮膚科学講座 岸本 泉 助教

コメント：アプリコット賞を授与頂き、誠にありがとうございます。やるべき事に追われ慌ただしく過ぎ去っていく日々の中で、この賞を頂けた事とその日々を振り返るきっかけとなりました。医師として、母として充実した時間を過ごしてきた事を改めて実感しております。そしてそれは、ご指導・ご支援いただきました方々や家族のおかげであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。この喜ばしい機会を新しいスタートとし、より一層邁進して参ります。

● 診療部門

内科学第三講座 齊藤 夏子 病院助教

コメント：この度はアプリコット賞を賜り、大変光栄に存じます。このような賞をいただけましたのも、これまでご指導くださった先生方や支えてくださったスタッフの皆様のおかげと心から感謝申し上げます。仕事と子育ての両立は大変なことも多いですが、その分、自身また子供の成長における喜びもひとしおです。今後も、女性医師が活躍できる環境を整えることに微力ながら尽力いたします。

2022年度がん研究助成奨励金受賞者決定

3月6日(月)に公益財団法人大阪対がん協会が府内の大学や医療機関などで研究に取り組む若手の研究者や医療従事者に贈る2022年度がん研究助成奨励金の受賞者が発表され、本学教職員、大学院生ら5名が受賞しました。

【基礎の部】

◆ 腎泌尿器外科学講座 池田 純一 研究医員

オルガノイド培養を用いたIntraductal carcinoma of the prostate (IDC-P) の導管内浸潤に関わる因子の解明と新規治療ターゲットの開発

◆ 附属生命医学研究所がん生物学部門 田中 伯亨 助教

KRAS阻害剤の治療効果改善に向けた低酸素応答関連分子の影響の解明

【臨床の部】

◆ 呼吸器腫瘍内科学講座 竹安 優貴 助教

未治療進行期非小細胞肺癌における下気道細菌叢と抗PD-1抗体の治療効果の検討

【看護等(緩和ケア・リハビリ等)の部】

◆ 大学院看護学研究科 小川 藍 大学院生

化学放射線療法により味覚障害を有する頭頸部がんサバイバーの症状経過が生活の営みに及ぼす影響と対処方略

◆ リハビリテーション学部理学療法学科 福島 卓矢 助教

多面的機能評価を用いた食道がん術後アウトカムリスク因子の同定

外科学教育におけるオンライン合同国際講義の有益性が明らかに

外科学講座橋本大輔講師、里井壯平診療教授らのチームは、合同国際講義が外科学教育において有益だったことを明らかにしました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い留学の機会が損なわれていた中、本学は国際交流協定を結んでいる欧州リトアニア共和国のヴィリニウス大学と合同で、令和3年10月から令和4年5月まで、両大学の医学部生を対象とした計15回のオンライン合同国際講義を実施。全講義終了後の参加学生へのアンケート調査で講義内容への関心度や満足度が高いという結果が得られたことから、国際交流が困難な環境下においてもオンラインシステムの活用により有益性の高い講義を実施できることを明らかにしました。なお、本研究をまとめた論文が日本外科学会発刊の刊行物『Surgery Today』(インパクトファクター：2.540)に2月15日(水)に掲載されました。

医学部特別講義を実施

令和4年10月19日(水)、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、大阪府医師会高井康之会長による「日本の医療制度と医師の業務」と題した講義が実施され、125名が受講しました。これは医学部2学年生を対象とした「人間と社会A2」における特別講義として実施されたもの。当日は友田幸一学長が「医師になる上で欠かせない日本の医療や保険診療について学べる貴重な機会」と述べた後、高井会長による講義がスタート。講義では西洋医学の源流や医師会誕生までの歴史、医師会の活動、保険診療の仕組みについて解説されました。

国立大学法人大阪大学との包括連携協定の締結について

関西医科大学は大阪大学と学術交流に関する包括連携協定を締結いたしました。

令和4年11月18日(金)に、大阪大学西尾章治郎総長と友田幸一学長が出席し、大阪大学からは金田安史統括理事・副学長(大学経営・OU構想策定・共創・病院担当)、田中敏宏統括理事・副学長(教育研究・内部統制・教育・入試・学生支援担当)、また、本学からは木梨達雄理事(研究・知財担当)・副学長(研究担当)の同席のもと、調印式が行われました。

本協定をもとに、地域の中核・特色ある研究大学を目指す本学と世界最高水準の研究大学を目指す大阪大

学とが連携・協力して、人材交流、共同研究等を一層推進することで、学術の振興や社会の発展への寄与をめざします。



友田学長(右から2人目)と大阪大学西尾総長(中央)

附属病院

AI内視鏡・医用画像解析ソフトウェア導入

令和4年11月、附属病院に、AI内視鏡を導入しました。病変の発見支援のみならず、腫瘍の鑑別支援、浸潤がんの鑑別支援、潰瘍性大腸炎活動性評価支援までも可能なフルスペックモデルのAI内視鏡導入は西日本の病院では初めてです。

今回導入したAI内視鏡「内視鏡画像診断支援プログラム」は、大腸の病変候補検出をリアルタイムに行う画像診断支援プログラムです。

術中においては、これらシステムの導入により、内視鏡を担当する医師の技量を補うことで、適切に判定・診断することが可能となり、またリアルタイムの診断支援による迅速な治療方針の決定により、患者さんの負担軽減にもつながります。

また、令和5年3月には胸部単純撮影、4月には胸部CT撮影の診断装置から得た情報をコンピュータ処理し、医師の診断を支援する医用画像解析ソフトウェアも導入しました。肺結節の特徴に類似した特徴を持つ領域をコンピュータで検出することにより、医師の肺癌の見落とし防止につながります。



導入されたAI内視鏡(イメージ)

附属病院

AYA世代支援チームの取組みについて

附属病院では令和4年8月にAYA世代のがん患者さんの診療や支援を行う実働部隊で、小児科医師など13名のコアメンバーで構成される「AYA世代支援チーム」を発足しました。

AYA世代とは Adolescent and Young Adult (思春期及び若年成人)の略で、15歳から39歳くらいまでの世代を指します。がん患者さんのなかでも他の世代にはみられない特有の悩み(学業や進学、就職、恋愛や結婚、妊娠・出産など)を多く抱えておられますが、患者数が少ないことや希少がんが多いことなどから、診療や支援の体制が十分に整っている医療施設が非常に少ないのが現状です。

当チームでは、患者さん支援の一環として2月21日(火)13時からニジゲンノモリオンライン遠足を開催。ニジゲンノモリオンライン遠足は淡路島にある施設「ニジゲンノモリ」とZoomで中継を繋ぎ、オンライン遠足というかたちで小児病棟入院中の患者さん5名が参加。ジップラインの映像体験や、謎解きイベント等で病室に

いながら大いに盛り上がりました。

3月31日(金)17時30分からは医療従事者のためのがん外見ケアセミナーを実施しました。附属病院で勤務する医療従事者が参加し、がん治療によって外見に変化が生じてしまった患者さんをケアするための方法を外部講師から学びました。

附属病院では今後もAYA世代支援チームが中心となって手厚い支援の体制構築をめざします。



がん外見ケアセミナーにてメイクアップの方法を体験する参加者

附属病院

地域連携Webセミナー

3月4日(土)14時から、附属病院地域連携Webセミナーが開催され、地域医療機関の医師、看護師、その他医療従事者、介護福祉従事者112人が視聴しました。

地域医療連携部國枝武伸副部长(脳神経内科病院准教授)が総合司会を務め、松田公志病院長による開会挨拶、綴喜医師会安田美希生会長による挨拶が述べられました。

その後の学術講演は、腎泌尿器外科木下秀文診療部長による「ロボット手術の過去、現在、未来」、呼吸器腫瘍内科倉田宝保診療部長による「劇的に変化した肺がん診療」の2つの講演が行われました。

最後に谷川昇副病院長(放射線科診療部長)による閉会挨拶が行われ、盛会裏に幕を閉じました。



講演を行う木下診療部長

附属病院

北河内がん就労支援セミナー

2月13日(月)17時30分から附属病院13階講堂にて北河内がん就労支援セミナーが開催され、本学教職員ら27人が参集したほか、オンライン配信では34人が視聴しました。

がんセンター診療支援部門長である附属病院乳腺外科杉江知治診療教授の司会のもと、一般社団法人仕事と治療の両立支援ネットワークブリッジの服部文代表理事が「『がん患者さんの未来に寄り添う就労支援』～患者さんの職業人生のためにそれぞれの立場でできること～」と題して講演を行いました。がん患者さんが治療と仕事を両立しやすい環境を整備するために医療従事者が何をできるかが語られ、参加者たちは理解を深めました。



総合司会を務める杉江診療教授

総合医療センター

卒後臨床研修評価機構（JCEP）による認定病院

基幹型臨床研修病院である総合医療センターにおいて、NPO法人卒後臨床研修評価機構（略称：JCEP）による第三者評価を受審し、JCEPの定める認定基準に達していると認められ、令和5年1月1日付けで認定(4年)を受けました。

JCEPは、臨床研修プログラムを中心とした臨床研修評価を行い、医療の発展に寄与するとともに、臨床研修病院群の質の向上を図ることを目的としたNPO法人です。

JCEP調査結果報告書では、大学附属病院であると同時に地域医療を支える市中病院的な役割も担い、アカデミックかつ実践的な臨床研修が行われており、手厚いサポートと研修に集中できる環境が構築されていると評価されました。一方で、検討の余地があると指摘事項もありましたので、病院全体で課題改善に取り組み、さらなる臨床研修の充実を目指してまいります。



認定証

香里病院

地域連携Webセミナー

2月18日(土) 15時から、「地域連携 Web セミナー ～香里病院の新たな取り組みについて～」が開催され、寝屋川市医師会を中心として本学の医師、看護師、医療技術職を含む48人が視聴しました。

地域医療連携部延山誠一部長(内科部長)の司会により、岡崎和一病院長と寝屋川市医師会香川英生会長の挨拶の後、セミナーが開始。寝屋川市医師会の先生方が座長を、香里病院の診療機能を担う2人の医師が演者を務めました。

まず寝屋川市医師会の伊与田賢也常務理事が座長を務め、延山部長から「KORI Program：活動的呼吸器地域連携について ～咳嗽とアレルギー疾患を中心に～」を、次に同医師会の山下英三郎常務理事が座長を務め、岩嶋

義雄内科部長から「高齢者高血圧の診療・薬剤選択について」と、それぞれ題して2つの講演が行われました。

最後に同医師会の樋野剛司副会長から、閉会の辞が述べられ、盛会裏に幕を閉じました。



講演を行う延山地域医療連携部長

天満橋総合クリニック

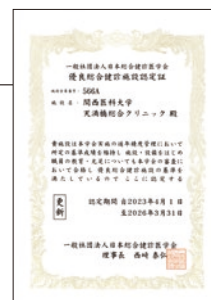
日本総合健診医学会優良総合健診施設に認定

天満橋総合クリニックは、一般社団法人日本総合健診医学会による優良総合健診施設認定実地審査を受審し、下記のとおり認定更新されました。

- 施設会員番号：566A
- 実地審査日：令和4年10月25日
- 認定有効期：令和8年3月31日

また、一般社団法人健康評価施設査定機構による「特定健診・特定保健指導」認定施設としても、下記の通り認定更新されました。

- 登録番号登録第0820149号
- 認定有効期限:2026年(令和8年)3月31日



国民の健康の保持と増進を使命とする学術団体一般社団法人日本総合健診医学会が、設立当初の昭和49年から各施設の健診設備、健診システム、受診者対応、安全対策、感染対策などを中心に本学会に所属する施設が社会的に信頼される医療水準で運営されているかどうかを審査し、「質」の保証された施設には「優良総合健診施設」として認定を行っています。

令和4年度4病院合同看護研究発表会

2月25日(土)9時から令和4年度4病院合同看護研究発表会が開催されました。今回は香里病院看護部が開催を担当し、附属病院13階合同カンファレンスからオンラインでの配信を行いました。今年度は「『看護をつむぐ』～変化の時代にも変わらぬ看護の力～」をテーマに7演題の研究が発表され307名の参加者が聴講。コロナ禍においても日頃の看護実践の成果を研究として共有でき、大変有意義な会となりました。また、看護キャリア開発センター看護研究支援部門長である看護学部在宅看護学領域李錦純教授による講評があり、参加者たちは研究活動への意欲が高まりました。



看護キャリア開発センター

専門・認定看護師活動支援プログラム講演会

1月7日(土)14時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、看護キャリア開発センター専門・認定看護師活動支援部門による講演会が行われました。谷田由紀子部門長(総合医療センター看護部部長)が司会を務め、瀬戸奈津子副部門長(看護学部慢性疾患看護学領域教授)による講師紹介の後、看護学部クリティカルケア看護学領域宇都宮明美教授による講義が行われました。講義では、急性・重症患者看護のCNS(Certified Nurse Specialist: 専門看護師)としてのこれまでの経歴や具体的な活動について振り返りながら、大規模災害時の病棟で専門看護師として自身が果たした役割や、重症部門での病床コントロールにおける経験などについて解説されました。

その後は、伊地知仁美副部門長(附属病院看護部副部長)進行のもと、新型コロナウイルス感染症の影響で中

止となった交流会に代えて、この講演会に参加した本法人内の専門・認定看護師の自己紹介が行われ、参加者全員から「参加して良かった」との高評価を得られました。



宇都宮教授による講演の様子

「関医・看護師リカレントスクール」第1回同窓会

2月24日(金)13時30分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「関医・看護師リカレントスクール」第1回同窓会が開催されました。

本学では、令和元年6月から看護師の復職支援として、2ヵ月間の学び直しの場を提供しています。第1期から令和4年度の第6期までの57名の修了生のうち、26名が同窓会に参加しました。

スクール関係者の挨拶に続いて行われた、関医・看護師リカレントスクール部門安酸史子部門長(看護学部看護学教育領域教授)の講演の後、交流会では復職のハードルを乗り越えた数々の体験が述べられ、お互いを激励する一コマとなりました。

今後は同期生との繋がりに加えて同窓生全体での

交流を深め、復職への足掛かりとなることが期待されます。



講演を行う安酸部門長



関西医科大学交流センターラウンジオープン

4月5日(水)、附属病院正面玄関前の関西医科大学交流センター2階に「ラウンジ」がオープンしました。どなたでもご利用いただける森の中をイメージした無料の休憩スペースです。



- ▶ご利用時間 【平日】7時45分～20時 【第1・3・5土曜】7時45分～16時
- 自動販売機設置(ドリンク・アイスクリーム・軽食)
- ドトールとミスタードーナツ商品の出張販売(ドリンク・軽食) 【平日】10時30分～15時 【土曜】10時30分～14時

学会主催報告

令和5年1月～3月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第61回日本網膜硝子体学会総会

- 会期 令和4年12月2日(金)～4日(日)
- 場所 大阪国際会議場・オンデマンド(令和4年12月19日(月)～令和5年1月15日(日))
- テーマ 網膜硝子体疾患における実情と新展開

眼科の各分野の中でも網膜硝子体疾患は、病態研究、画像診断、新薬や新しいアイデアを用いた硝子体手術などにおいて、最も目まぐるしい進歩がみられる領域である。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中での開催となったものの、3日間にわたり多くの方々にご参加いただいた。シンポジウムや教育セミナーは特に盛況であった。一般講演、学術展示においても熱い討論が繰り広げられた。【会長：眼科学教室 高橋 寛二 教授】



学会賞等受賞情報

令和5年1月～3月の学会賞受賞者等を紹介합니다。

第15回 中谷賞・技術開発研究助成 調査研究助成

小児科学講座 石崎 優子 診療教授

- テーマ 小児慢性疾患患者の成人科移行に向けたインタラクティブオンライン移行期手帳の開発
- 授与団体 公益財団法人中谷医工計測技術振興財団

優秀演題賞

小児科学講座 山内 壮作 講師

- テーマ 超早産児の急性腎障害診断におけるneonatal RIFLEと新生児修正KDIGOの有用性の比較
- 授与学会 第43回日本小児腎不全学会学術集会

優秀ポスター賞

小児科学講座 山添 敬史 助教

- テーマ てんかん性脳症を呈した下垂体Germinomaの1例
- 授与学会 第64回日本小児血液・がん学会

優秀賞

リハビリテーション学部理学療法学科 梅原 潤 助教

- テーマ 骨格筋3次元形状計測における3次元超音波イメージングの妥当性検証
- 授与学会 第27回日本基礎理学療法学会学術大会

第42回日本看護科学学会学術集会 優秀演題ポスター賞

看護学部 看護学教育領域 上山 千恵子 助教

- テーマ 精神科入院患者の自殺が発生した際の看護職スタッフ支援に関する実態調査
- 授与学会 日本看護科学学会学術集会



関西医科大学広報vol.60(令和5年1月23日発行)、P21掲載「学会主催報告」記載内容に誤りがありました。
第65回日本甲状腺学会学術集会
(誤)大阪国際交流センター → (正)大阪国際会議場 お詫びして訂正申し上げます。

※特に記載がない限り、記載の職位は取材当時の内容です。



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に令和5年1月1日～3月31日 ※判明のみ)

■ テレビ等

附属生命医学研究所神経機能部門 小早川 高 准教授	NHK「サイエンスZERO」 (1月15日)	「冬眠」をとりあげた番組の中で小早川准教授の研究が紹介され、人工恐怖臭の刺激によってマウスを冬眠状態に誘導できるという結果や今後の研究の応用についてのコメントが紹介されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (1月24日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げについて解説し、起こりうる変化や疑問等について見解を述べました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (1月26日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げについて解説し、5類移行後の影響について見解を述べました。
総合医療センター	毎日放送「コロナ1000日カレンダー」 (2月8日)	新型コロナウイルス感染症の拡大からの3年間を振り返る報道特番の中で、本学が提供した新型コロナウイルス感染患者さんの治療の様子が放映されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (2月14日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、マスク着用の緩和と新型コロナウイルスワクチンに関する特集の中で、マスク着脱やワクチン接種のタイミングについて見解を述べました。
内科学第一講座 伊藤 量基 教授	毎日放送「医のココロ」 (3月19日)	血液のがんの一つである悪性リンパ腫をテーマとした回に伊藤教授が出演し、その症状や治療方法について解説しました。

■ 新聞・雑誌等

眼科学教室 高橋 寛二 教授	月刊茶の間 (1月5日)	失明原因となる加齢黄斑変性について、高橋教授による症状や予防方法等の解説が掲載されました。
腎泌尿器外科学講座 木下 秀文 教授	読売新聞 夕刊 (1月5日)	尿漏れをテーマとして取り上げた「100年LIFE」のコーナーで、木下教授が原因や対処法について解説しました。
関西医科大学 松田 公志 広報担当理事	毎日新聞 朝刊 (Webにも掲載あり) (1月5日)	奨学金について扱った記事で、本学の医学部の学費が大幅減額となることに取り上げられ、松田理事のコメントとあわせ掲載されました。
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授 吉田 明史 病院助教	コンバーテック (1月18日)	海堀診療教授が、吉田病院助教と国立研究開発法人物質・材料研究機構(茨城県つくば市)との共同研究で開発を行った、貼ってがんを治療するシートの研究について取材を受け、開発経緯や有効性が紹介されました。
看護学部 三木 明子 教授	埼玉新聞 (1月28日)	訪問医療で起る暴力やハラスメントについて取り上げた記事で、三木教授による自治体の体制整備や関係機関との情報共有、連携の重要性を述べたコメントが掲載されました。
関西医科大学	毎日新聞 夕刊 (2月1日)	関西にある私立大学への入学志願者数の増減を伝える記事の中で、本学が学費を大幅減学したことについて取り上げられました。
岡田 英孝 医学部教務部長 (産科学・婦人科学講座教授)	リビング北摂ひがし (2月24日)	関西地区の私立医科大学特集において岡田教務部長がインタビューを受け、チーム医療を学べる医療系複合大学としての本学の特長や、医師になるには「人を救いたい」という熱意が大切とのメッセージが掲載されました。
眼科学教室 高橋 寛二 教授	名医のいる病院2023 眼科治療編 (3月1日)	失明原因となる加齢黄斑変性について、高橋教授による疾患の特徴や症状、治療方法等の解説が掲載されました。
呼吸器腫瘍内科学講座 竹安 優貴 助教 腎泌尿器外科学講座 池田 純一 研究医員 附属生命医学研究所がん生物学部門 田中 伯亨 助教 看護学研究科 小川 藍 大学院生 リハビリテーション学部理学療法学科 福島 卓矢 助教	朝日新聞 朝刊 (3月8日)	竹安助教、池田研究医員、田中助教、小川大学院生、福島助教が、府内の大学や医療機関などで研究に取り組む若手の研究者や医療従事者に贈られる2022年度がん研究助成奨励金(公益財団法人大阪府がん協会)を受賞したことが紹介されました。
心理学教室 西垣 悦代 教授	週刊医学界新聞 (3月13日)	医学生のセルフケア力の向上を目指したマインドフルネス実習について、その授業内容を注意点や有用性を交えながら紹介した記事が掲載されました。
腎泌尿器外科学講座 木下 秀文 教授	読売新聞 朝刊 (3月20日)	病院の実力「腎がん」大改編で、木下教授による腎がんの症状や治療の流れ、近年導入されているロボット支援手術についてなどを解説した内容が掲載されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 岩井 大 教授	毎日新聞 朝刊 (3月26日)	3月3日に開かれた「耳の日セミナー 耳の健康を考える」を取り上げた記事の中で、岩井教授がめまいの原因と予防の方法を述べました。

■ WEBメディア等

医化学講座 寿野 良二 講師	日経バイオテック (1月5日)	寿野講師が京都大学大学院医学研究科、千葉大学大学院理学研究科との共同研究で、不眠症治療薬であるレンドレキサントが結合したオレキシン2受容体(OX2R)の立体構造を解明したことが掲載されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	日経メディカル (1月23日)	光免疫療法とその研究について、本学に研究拠点を構えた理由や同療法の効果の仕組み、実施施設拡大中の現状や今後の展望などへの、小林所長のコメントが掲載されました。
附属病院光免疫療法センター 藤澤 琢朗 講師	日経メディカル (1月27日)	光免疫療法の全国での実施状況について取り上げた記事の中で、本学での光免疫療法の症例数や実施状況についてコメントしました。
内科学第一講座 石浦 嘉久 診療教授	メディカルトリビューン (3月2日)	石浦診療教授が第71回日本アレルギー学会(2022年10月7-9日に開催)で報告した、国内で集積した遷延性および慢性咳嗽患者334例を対象とする診療実態に関する研究結果について掲載されました。
呼吸器外科学講座 齊藤 朋人 講師	メディカルトリビューン (3月6日)	肺がん術後患者の悩みを「見える化」する新しい指標を開発した研究について、その概要や研究成果が掲載されました。
附属病院がんセンター 松本 俊彦 センター診療講師	日経メディカル (3月20日)	松本センター診療講師が第95回日本胃癌学会のワークショップ「後方治療のマネジメント 薬剤使い切りは本当に予後延長に貢献しているか」にて報告した、切除不能胃癌におけるHER2発現とFTD/TPIの治療効果の関連性を検討した多施設共同の後方視的観察研究の結果が取り上げられました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	MEDIFAX (3月24日)	木梨副学長が4月1日付で学長へ就任する発表が取り上げられました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	共同通信 (3月27日)	木梨副学長が次期学長に選任された本学の発表が取り上げられました。
看護学部 三木 明子 教授	Yahoo!ニュース「47NEWS」 (3月29日)	訪問医療で起る暴力やハラスメントについて取り上げた記事で、三木教授による自治体の体制整備や関係機関との情報共有、連携の重要性を述べたコメントが掲載されました。
関西医科大学	枚方つーしん (3月29日)	4月5日にオープンする関西医科大学交流センターラウンジについて取り上げられ、施設内設備の概要などと合わせ紹介されました。
関西医科大学	時事メディカル (3月30日)	本学が社会連携講座共同研究契約を締結するコガソフウェア株式会社・日本ハム株式会社・株式会社平和堂と共同で、健康に関心の低い方々に向けた「フレイル予防プログラム」の提供を開始したことが掲載されました。
関西医科大学	時事メディカル (3月30日)	本学が、京阪電鉄不動産株式会社・ミサワホーム株式会社・コガソフウェア株式会社と提携し、予防医療をサポートする新健康管理システム「ウェルネス・サポートシステム」を日本で始めて社会実装したマンションを竣工した記事が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

4月になって新しい環境でスタートを切られた方も多いのではないのでしょうか。関西医科大学でも新学長が就任され、新入生・新入職員の皆さんを迎えて新体制がスタートしました。

私自身の身近な環境の変化は大きくはないものの、この時期はこれからの1年を考えて新しい気持ちになります。そんな私の新年度の目標は、文章力のアップです！この小さな編集後記を書くのにもいつも悩んでしまいますが、これからも広報誌を読んでくださる方に、関西医科大学の活動を魅力的にお伝えできるようスキルアップを目指したいと思います。(も)

関西医科大学広報 Vol.61

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和5年4月28日(金)発行